

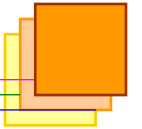
# 平成18年度 被害者援護業務 実態調査（重度後遺障害者世帯）報告書

平成19年 8月

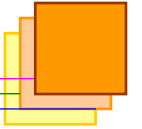
独立行政法人自動車事故対策機構

---

# 目次

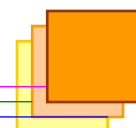


I. 調査概要	.....	2
II. 満足度調査に関する項目	.....	4
III. 在宅介護サービス、介護用品に関する項目	.....	28
IV. 協力病院に関する項目	.....	34
V. 療護センターに関する項目	.....	40



# I . 調查概要

# 1. アンケート調査の概要



調査実施期間

● アンケート調査は、平成19年1月に調査票を配布し、平成19年2月を回収期限とした。

調査方法

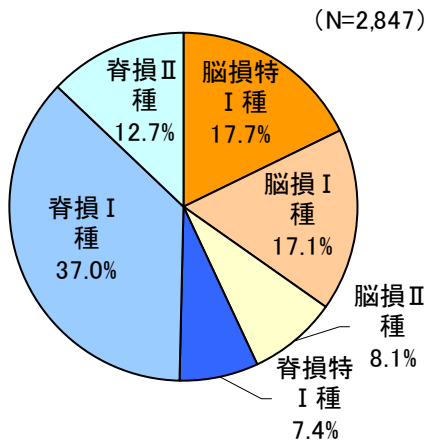
● アンケート調査は、平成18年12月時点における介護料支給全世帯(4,138世帯)にアンケート票を配布し、郵送にて回収した。

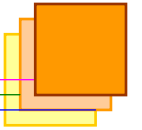
分析対象

● 配布した調査票のうち、回収した合計2,847世帯(回収率68.8%)を分析対象とした。

	配布数	回収数	回収率
脳損特I種	677	504	74.4%
脳損I種	652	488	74.8%
脳損II種	318	231	72.6%
脊損特I種	282	211	74.8%
脊損I種	1,616	1,052	65.1%
脊損II種	593	361	60.9%
合計	4,138	2,847	68.8%

受給者の種別

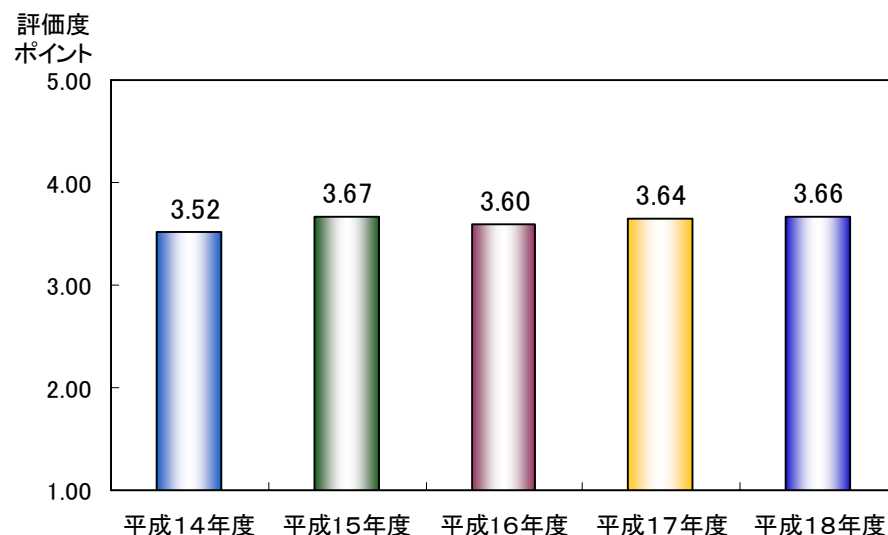
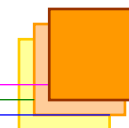




## Ⅱ. 満足度調査に関する項目

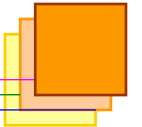
# 1. 重度後遺障害者に対する援護業務の評価

## (1) 重度後遺障害者に対する援護業務の評価



	H 1 4	H 1 5	H 1 6	H 1 7	H 1 8
■「ほほえみ」について					
1. 「ほほえみ」の内容	3.99	4.53	4.54	4.55	4.52
2. 「ほほえみ」の紙面	3.96	4.60	4.61	4.57	4.63
3. 自分のほしい有益な情報	3.56	3.57	3.47	3.60	3.56
4. 介護に活用できる有益な情報	3.55	3.62	3.61	3.69	3.68
5. 日常の介護への活用度	3.03	3.10	3.00	3.15	3.09
6. 同じ悩みを抱えた人達とのコミュニケーション希望	3.38	3.39	3.21	3.17	3.16
7. 「ほほえみ」を通じた精神的癒し	3.55	3.71	3.62	3.49	3.55
■「相談サービス」について					
1. 介護に係る相談サービスやアドバイス・サービス希望（期待度）	3.39	3.33	3.24	3.29	3.19
2. 電話相談で回答された内容の満足度	3.55	3.66	3.58	3.54	4.00
3. 介護に関する相談体制（開設時間等）の満足度	3.04	3.32	3.37	3.32	3.50
4. 介護に関する相談体制や精神的サポートによる精神的癒し	2.89	3.28	3.21	3.59	3.32
平均値	3.52	3.67	3.60	3.64	3.66

## (2) 重度後遺障害者に対する援護業務の評価(年度ごとの推移グラフ)



重度後遺障害者世帯の援護業務  
総合的評価

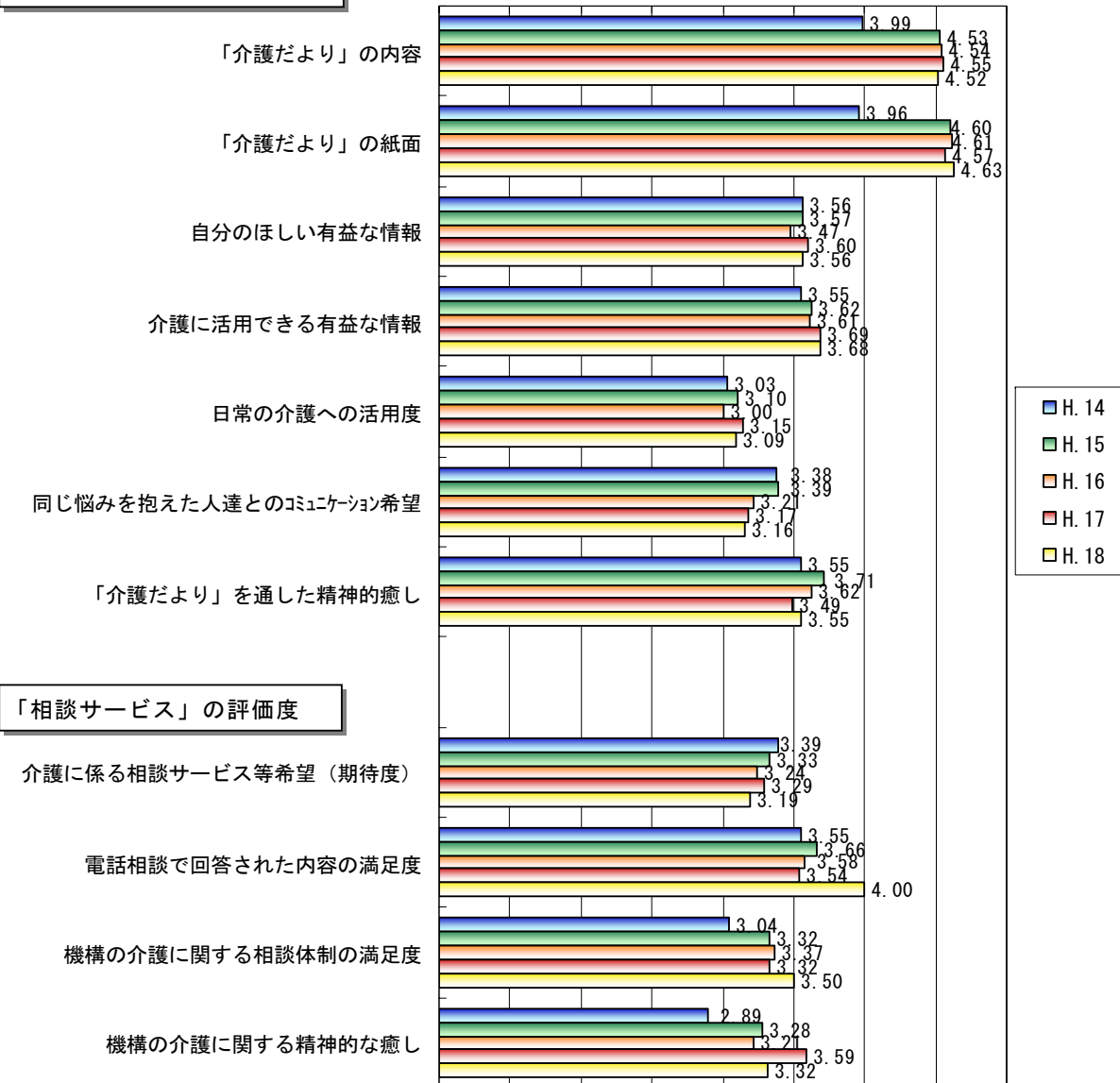


平均 3.66

「介護だより」の評価度

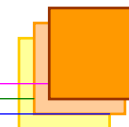
「相談サービス」の評価度

1.0 1.5 2.0 2.5 3.0 3.5 4.0 4.5 5.0 (平均値)

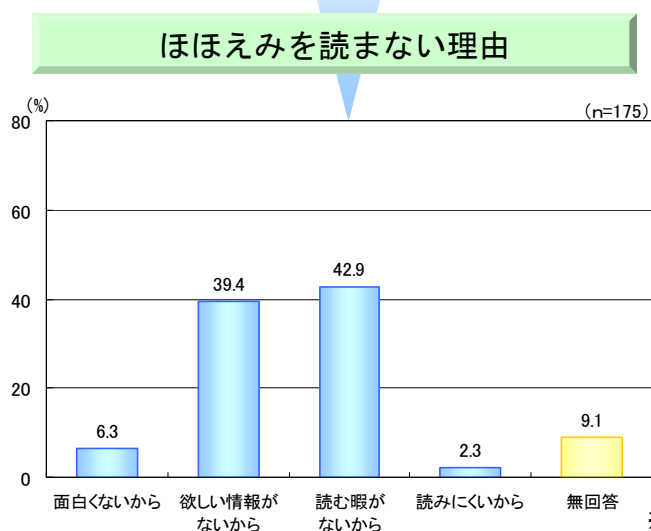
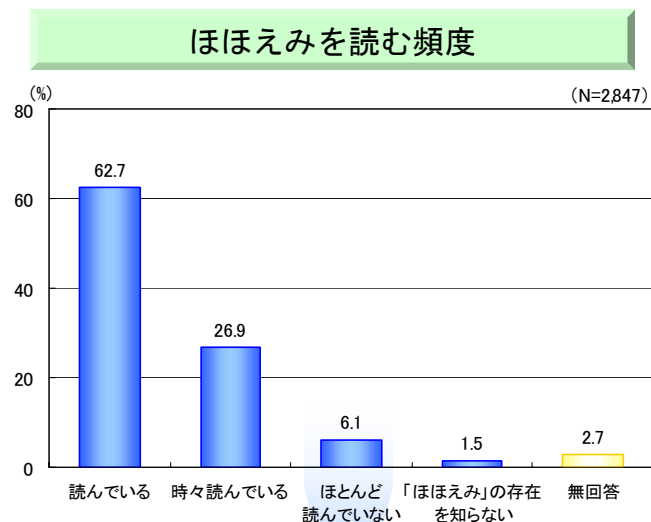


## 2.ほほえみの評価

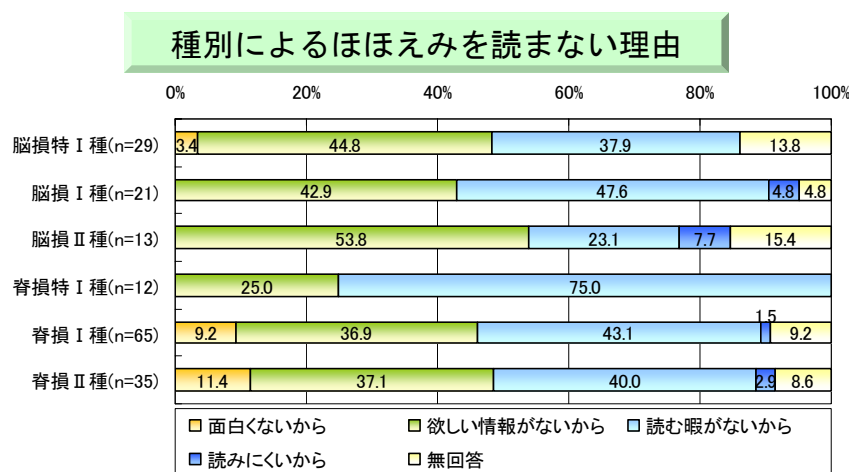
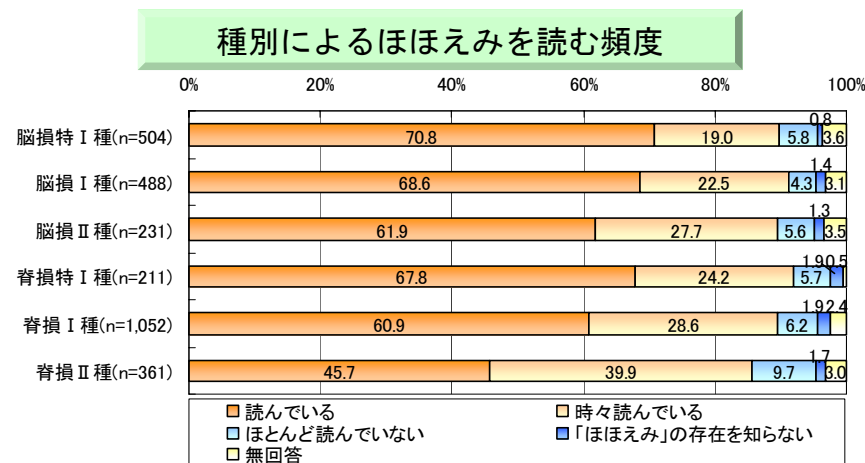
### (1)ほほえみを読む頻度



- 「ほほえみを読む頻度」については、「読んでいる」(62.7%)、「時々読んでいる」(26.9%)を合わせると、90%近くの回答者が読んでいる。種別で検討すると、重度の障害種別になるにつれて、「読んでいる」回答者の割合が高くなる傾向にある。
- 「ほとんど読んでいない」回答者を対象に、理由について回答を求めたところ、「読む暇がないから」が42.9%で最も多いが、「欲しい情報がないから」も39.4%を占めている。

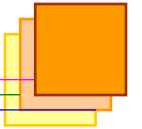


※ 「ほとんど読んでいない」と回答した175名について集計



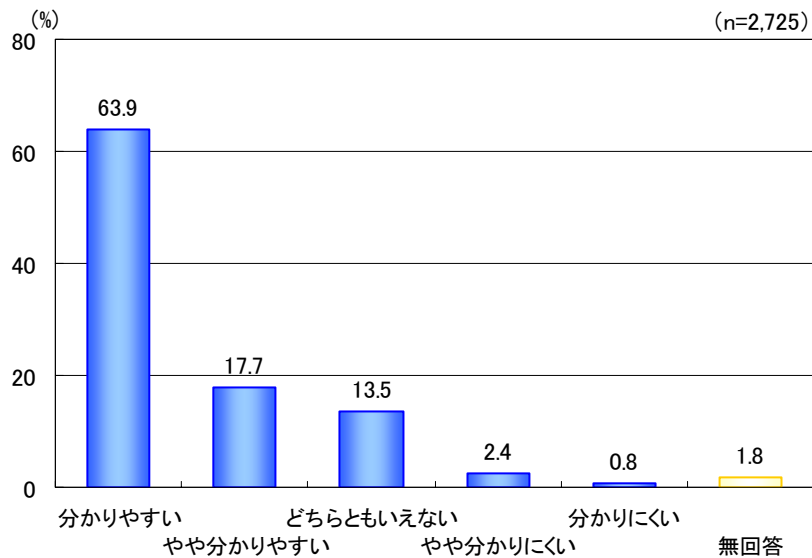


## (2) ほほえみの分かりやすさ

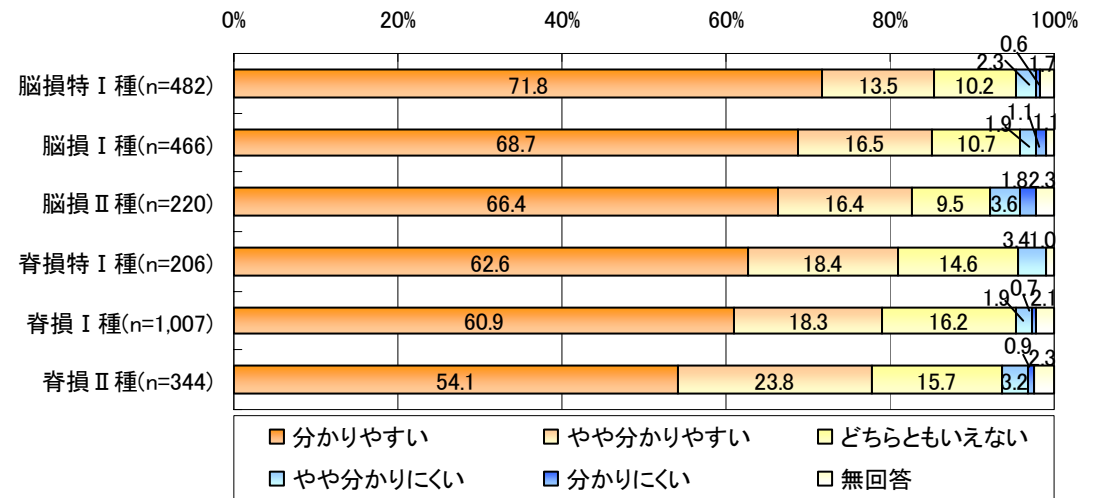


- 「ほほえみの分かりやすさ」については、「分かりやすい」(63.9%)、「やや分かりやすい」(17.7%)を合わせると、80%を上回っている。
- 種別で検討すると、「分かりやすい」との評価は、「脳損特I種」において最も高く、71.8%となっている。
- 「分かりやすい」との評価が最も低いのは「脊損II種」であり、54.1%にとどまっている。

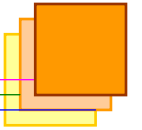
ほほえみの分かりやすさの評価



種別によるほほえみの分かりやすさの評価

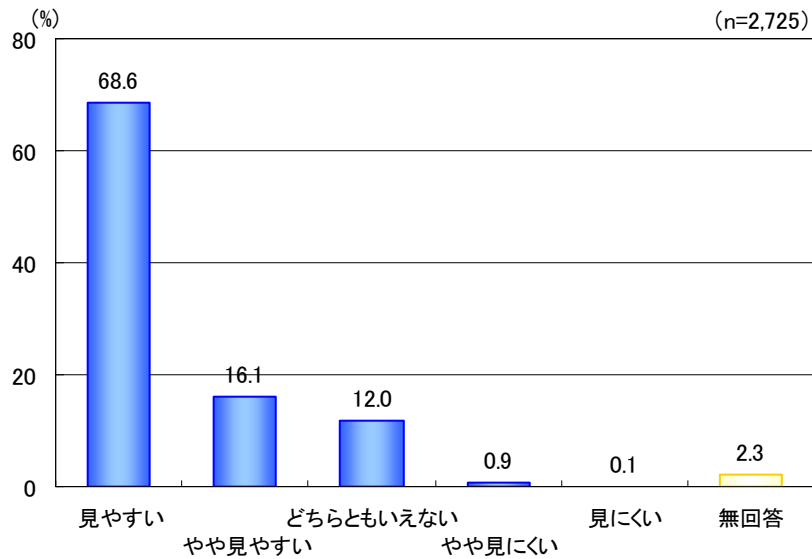


### (3) ほほえみの見やすさ

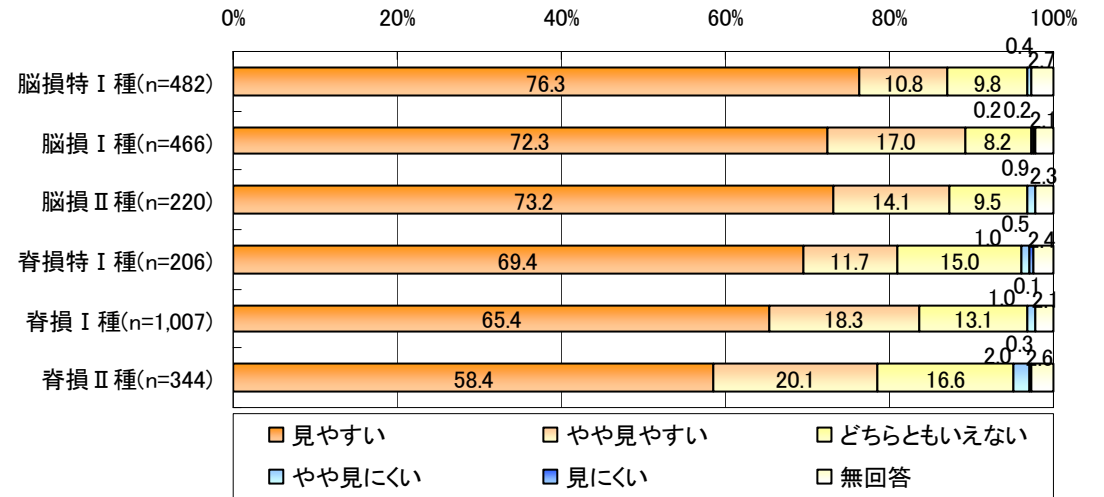


- 「ほほえみの見やすさ」については、「見やすい」が68.6%にのぼっており、評価が高い。
- 種別に検討すると、「分かりやすい」、「見やすい」という回答は、「脳損特 I 種」で最も割合が高く、「脊損 II 種」が最も低くなっている。

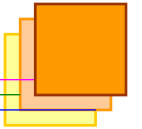
ほほえみの見やすさの評価



種別によるほほえみの見やすさの評価

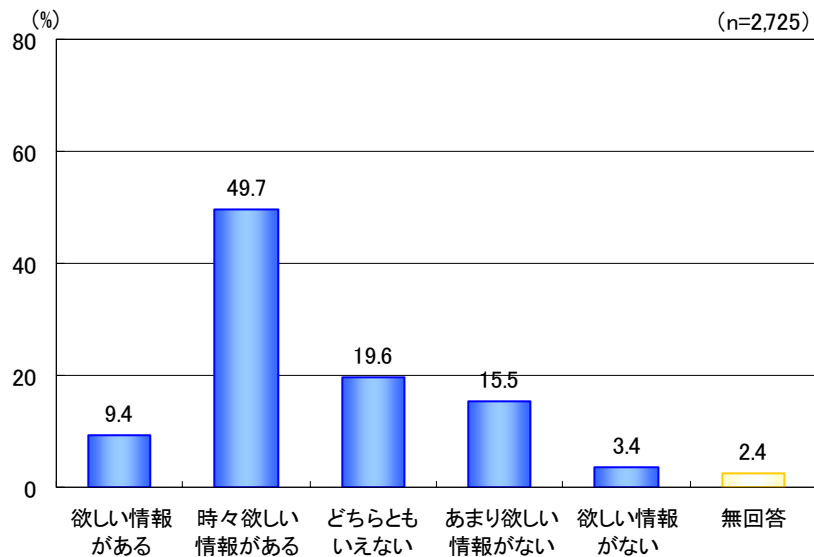


## (4) 介護者・受給者が欲しいと思う有益な情報の掲載

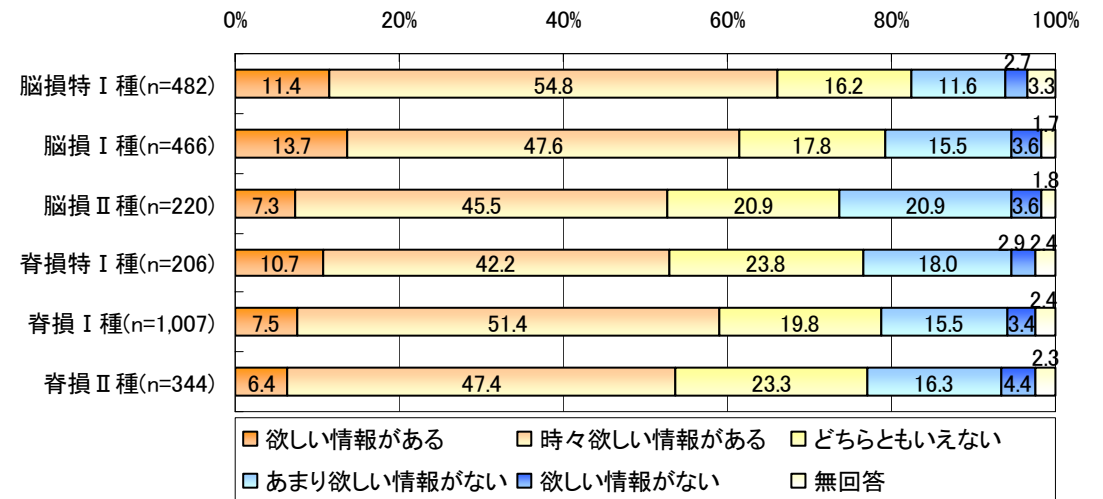


- 全体の約60%の回答者にとって、欲しいと思う情報が掲載されている(「欲しい情報がある」、「時々欲しい情報がある」)ことがうかがえる。
- 一方で、「あまり欲しい情報がない」(15.5%)、「欲しい情報がない」(3.4%)とを合わせると20%弱を占めている。
- 種別で検討すると、「欲しい情報がある」と回答している割合は、「脳損特I種」(13.7%)が最も高い。

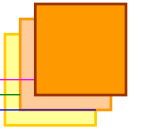
欲しいと思う有益な情報の掲載



種別による欲しいと思う有益な情報の掲載

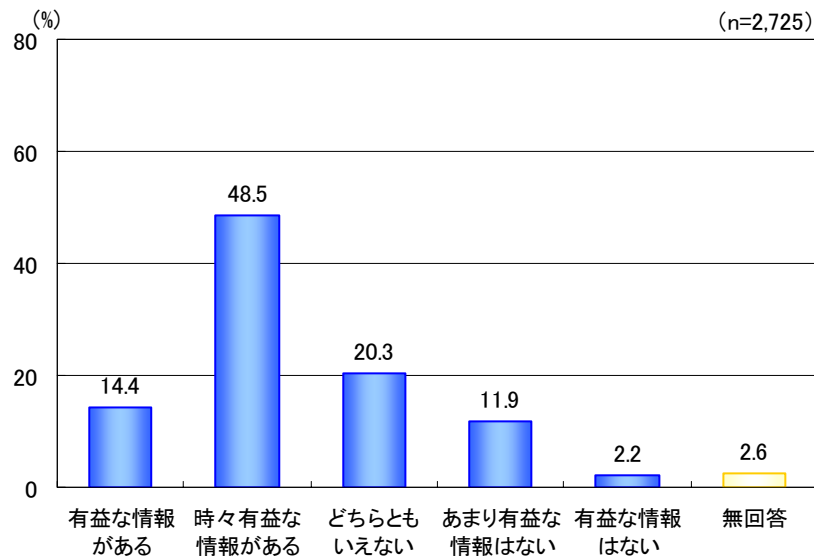


## (5) 介護に活用できる有益な情報の掲載

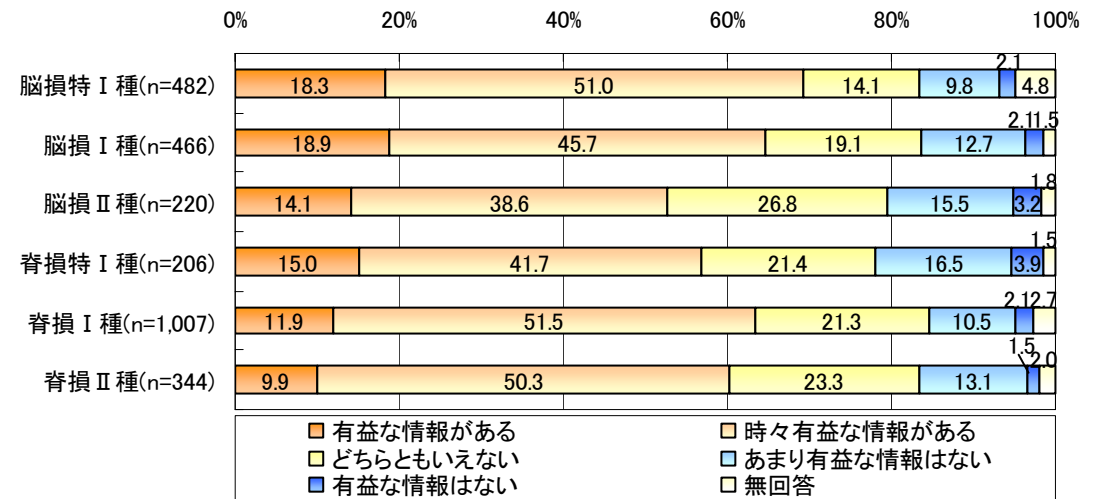


- 「介護に活用できる有益な情報の掲載」については、「有益な情報がある」(14.4%)、「時々有益な情報がある」(48.5%)となっている。
- 種別で検討すると、「有益な情報がある」と回答している割合は、「脳損Ⅰ種」(18.9%)、「脳損特Ⅰ種」(18.3%)において、比較的高い。
- 「脊損特Ⅰ種」及び「脳損Ⅱ種」では、「有益な情報はない」、「あまり有益な情報はない」と回答している割合が比較的高くなっている。

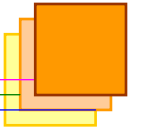
介護に活用できる有益な情報の掲載



種別による介護に活用できる有益な情報の掲載

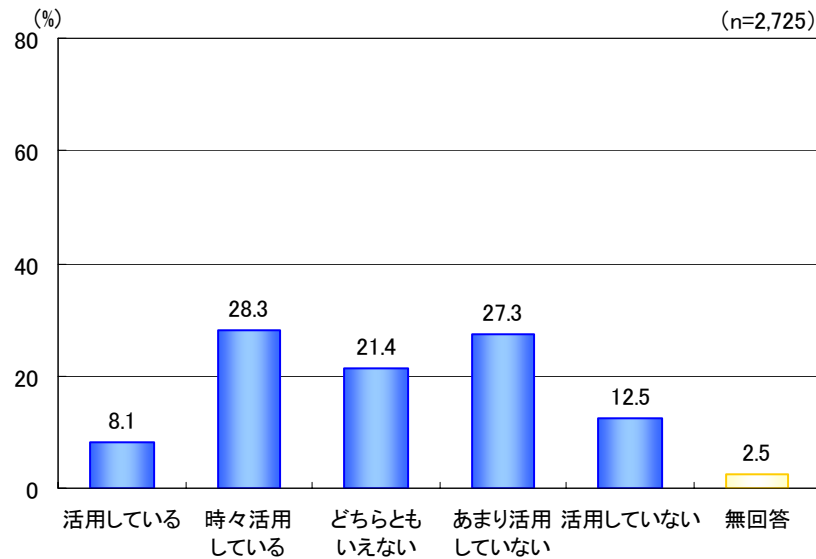


## (6) ほほえみの介護への活用度

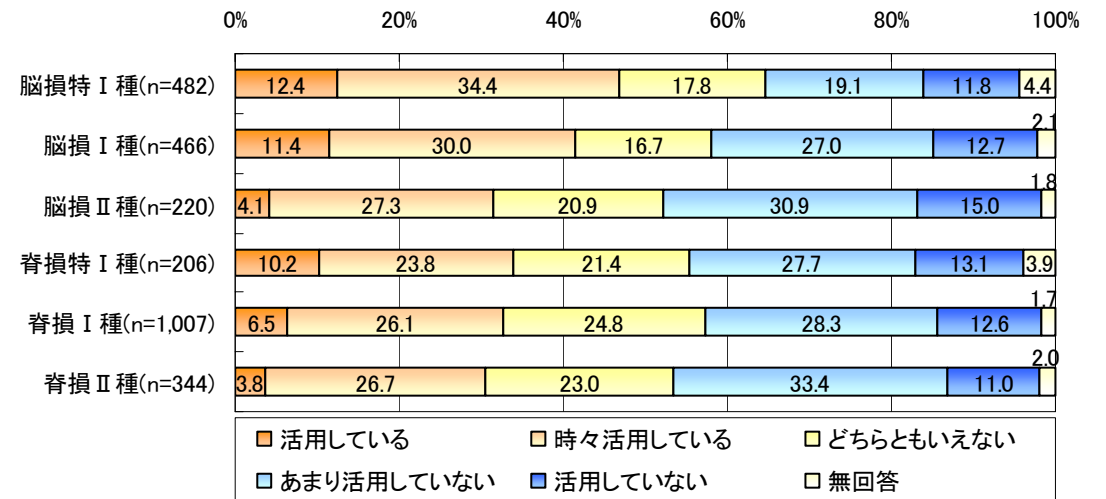


- 「ほほえみの介護への活用度」については、「活用していない」(12.5%)、「あまり活用していない」(27.3%)とを合わせると約40%を占めている。
- 脳損、脊損それぞれに重度の障害種別であるほど、「活用している」、「時々活用している」と回答している割合が高くなっている。

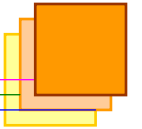
ほほえみの介護への活用度



種別によるほほえみの介護への活用度

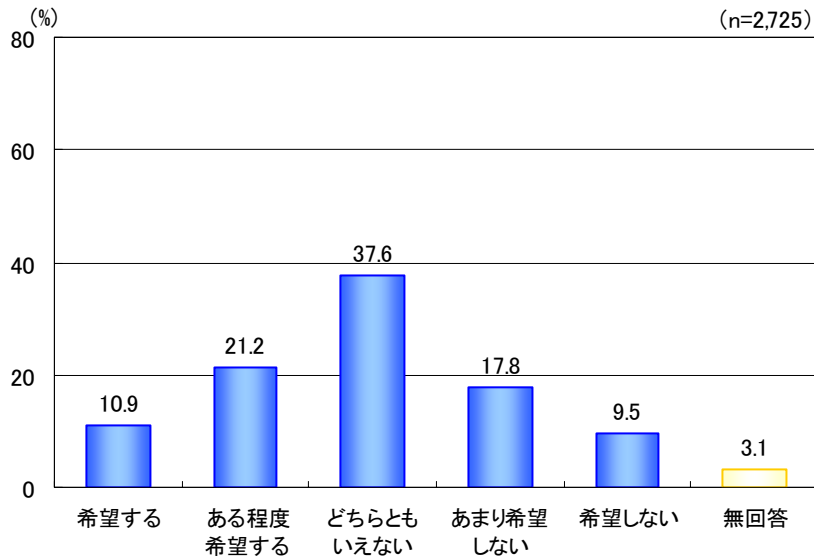


## (7) ほほえみを通してのコミュニケーション希望

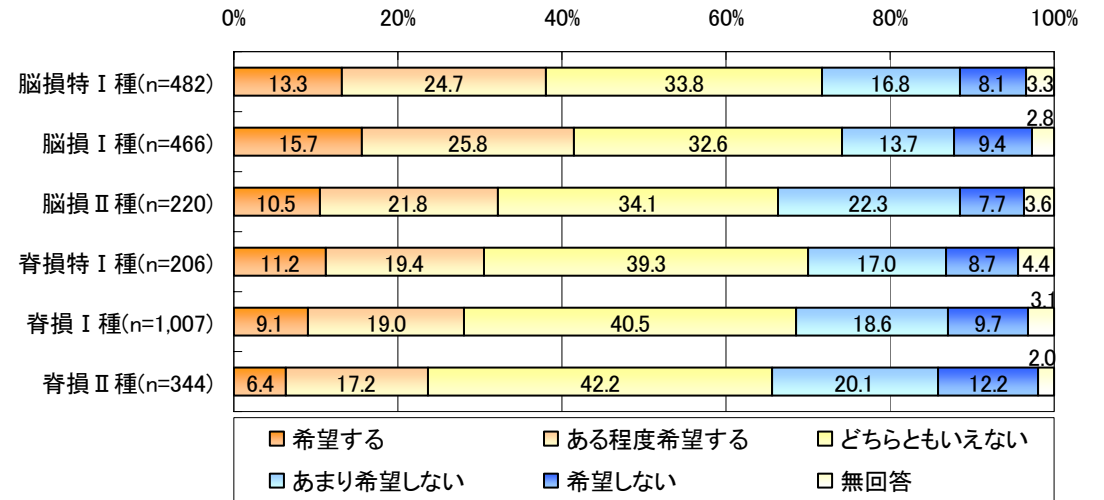


- 「ほほえみを通してのコミュニケーション希望」は、「どちらともいえない」(37.6%)を中心として、「希望する」から「希望しない」まで回答がばらついている。
- 種別で検討すると、ほほえみを通してコミュニケーションを希望している(「希望する」、「ある程度希望する」)回答者の割合は、「脳損Ⅰ種」が最も高い。

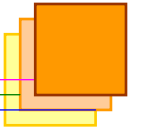
ほほえみを通してのコミュニケーション希望



種別によるほほえみを通してのコミュニケーション希望

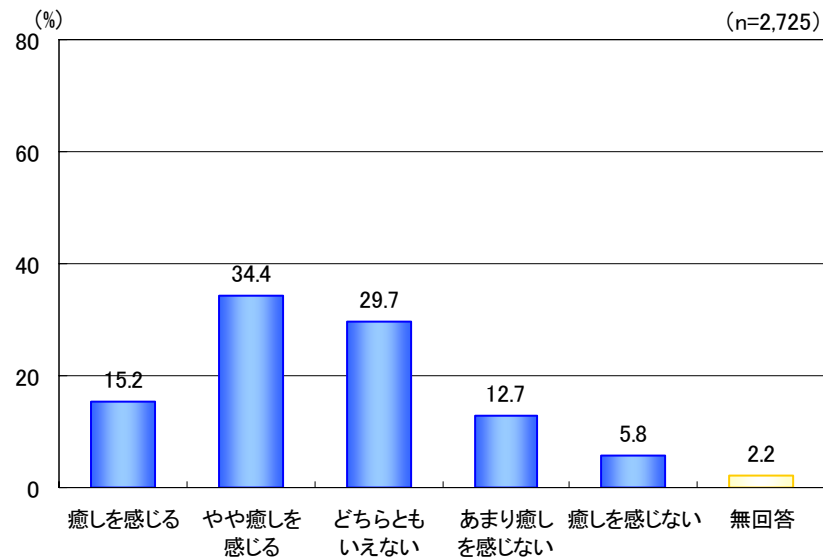


## (8) ほほえみを通しての精神的癒し

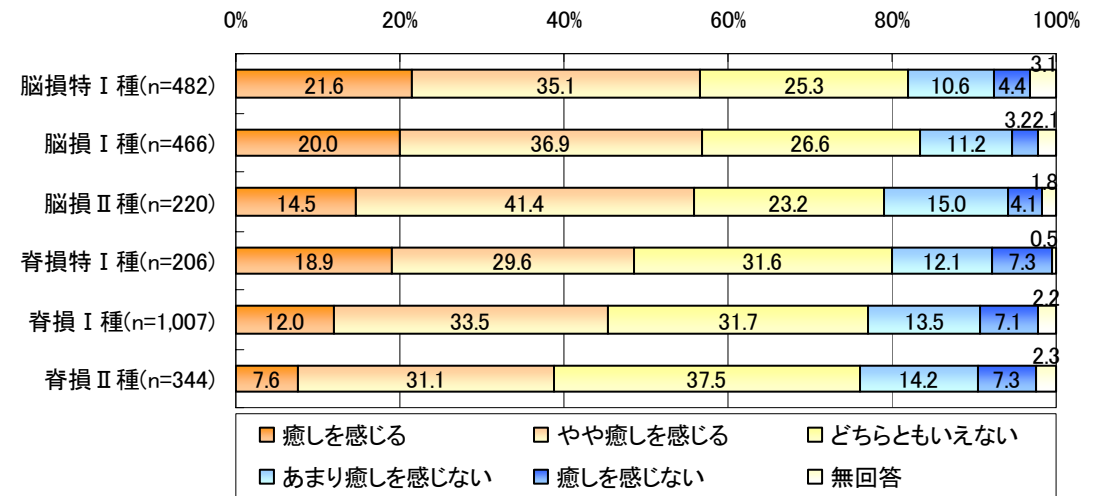


- 「ほほえみを通しての精神的癒し」は、「癒しを感じる」(15.2%)、「やや癒しを感じる」(34.4%)が半数近くを占めている。
- 種別で検討すると、脳損のほうが脊損よりも癒しを感じている(「癒しを感じる」、「やや癒しを感じる」)回答者の割合が高い。

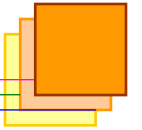
ほほえみを通しての精神的癒し



種別によるほほえみを通しての精神的癒し

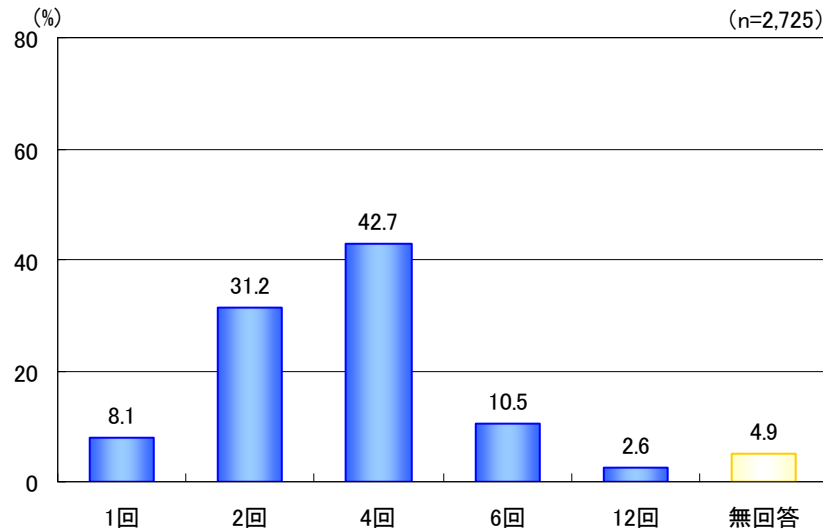


## (9) ほほえみの年間当たりの希望発行回数

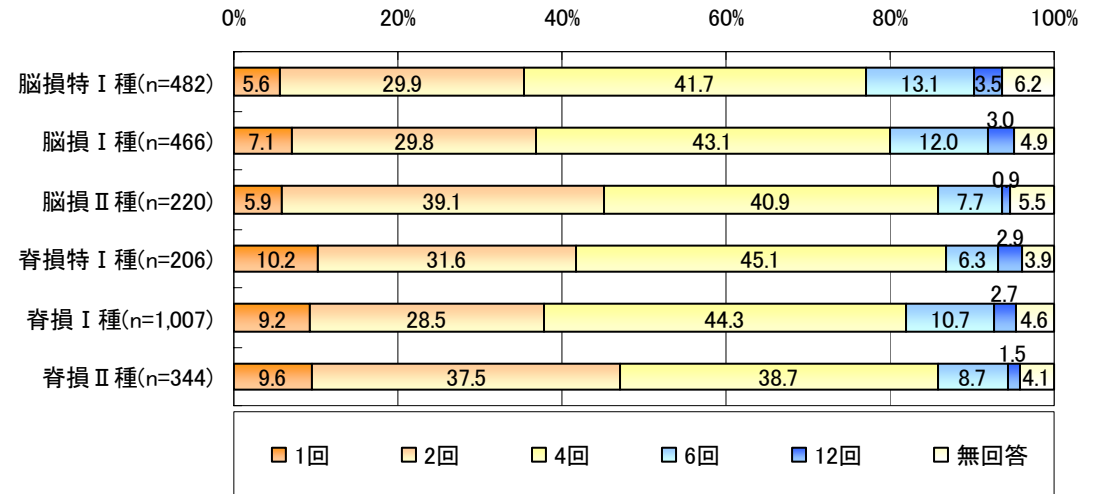


- ほほえみの年間当たりの希望発行回数としては、現行と同じく「4回」(42.7%)が最も多く、「2回」(32.1%)が続いている。

ほほえみの年間希望発行回数

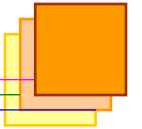


種別によるほほえみの年間希望発行回数





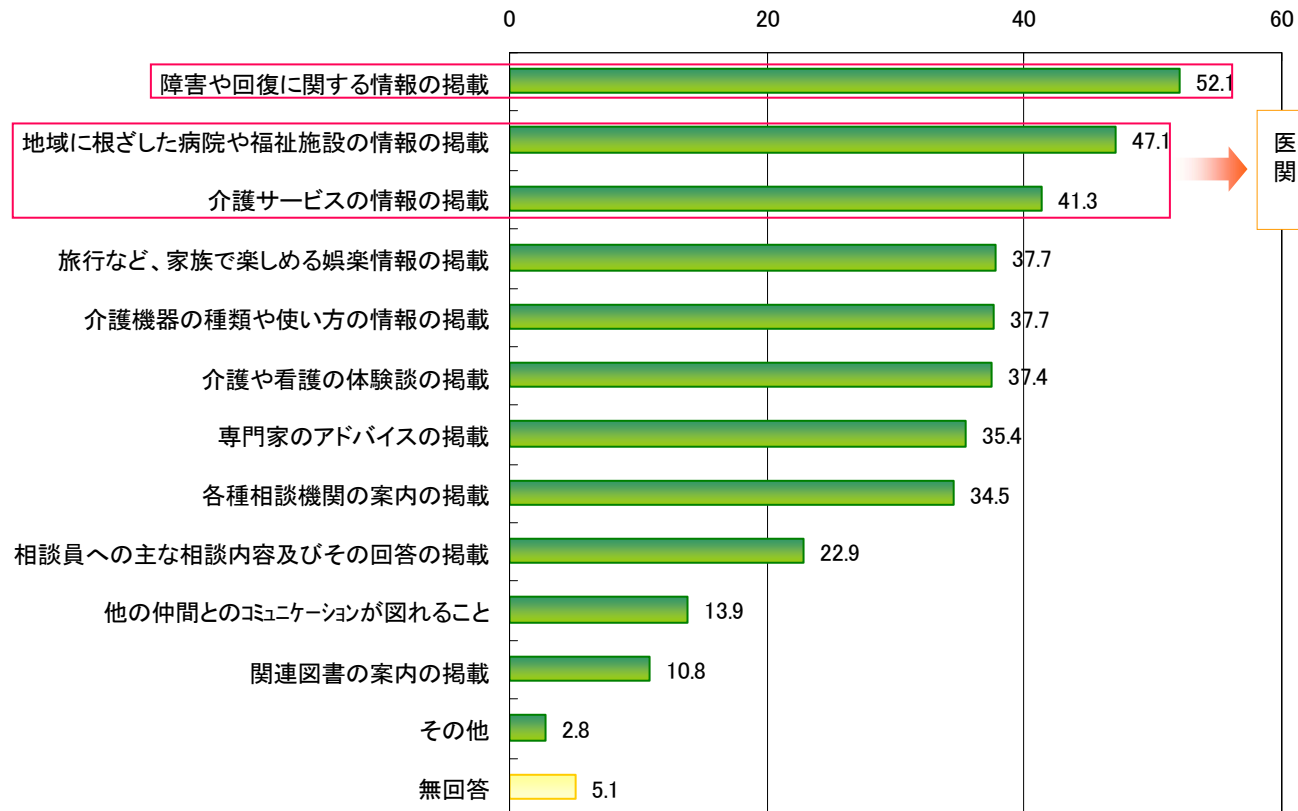
## (10) ほほえみに対する改善希望



- 「障害や回復に関する情報の掲載」が最も多く、半数以上の回答者が挙げている。
- 次いで「病院や福祉施設の情報」、「介護サービスの情報」といった介護生活を支える医療・福祉サービスに関する情報の掲載希望が強い。

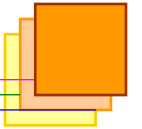
### ほほえみに対する改善希望

(複数回答: 単位%, n=2,725)



医療・福祉サービスに関する情報の掲載は、ニーズが高い

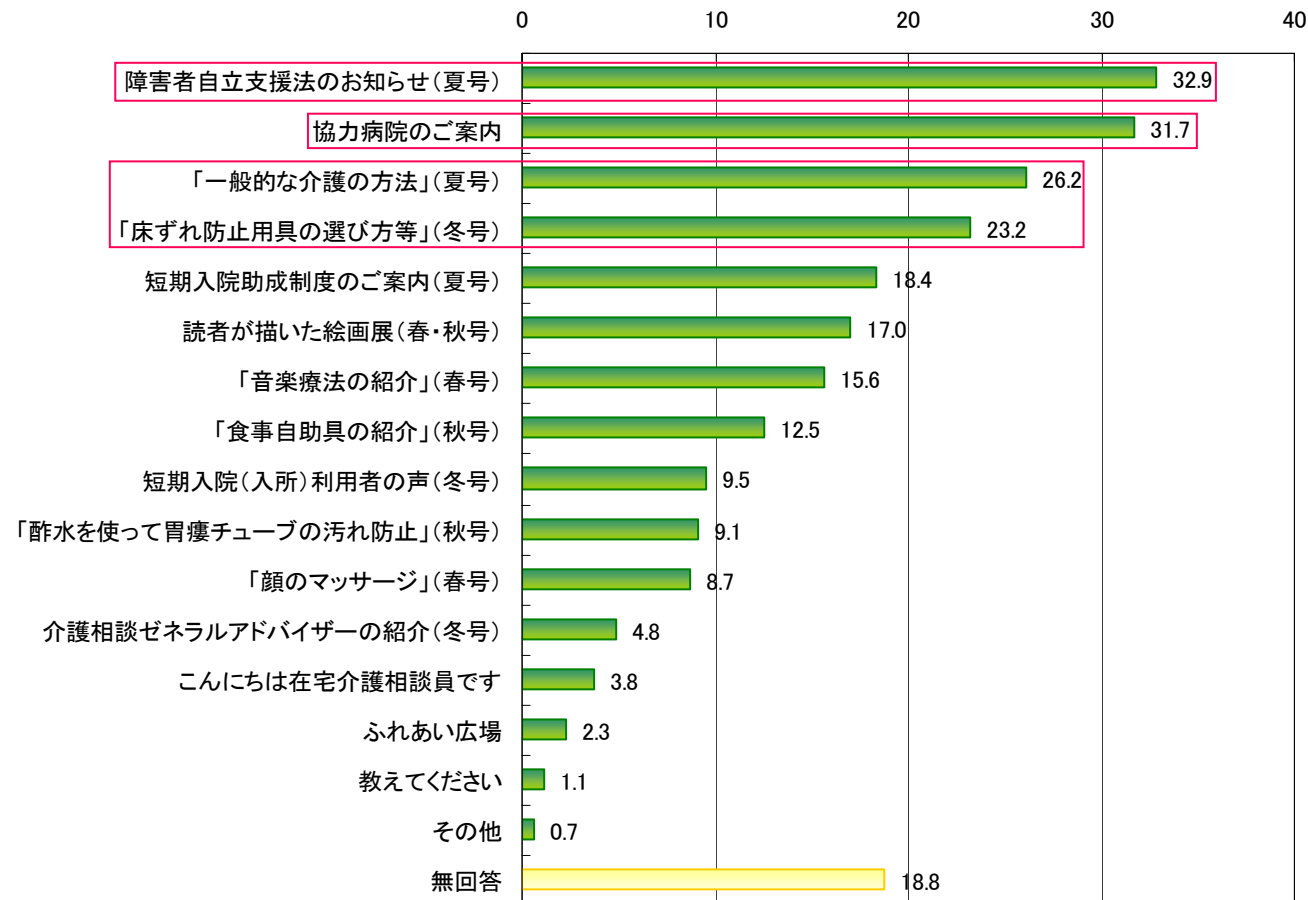
## (11) ほほえみ(過去1年間)で印象に残っている記事 ①



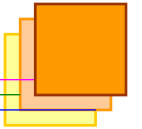
- 「障害者自立支援法のお知らせ」が最も高く、32.9%にのぼっている。福祉に関する公的制度情報は、関心を集めることがうかがえる。
- 次に多かったのは「協力病院のご案内」であり、居住地の近くの病院が協力病院に指定されることを待ち望んでいる看護者の希望を反映した結果となっているものと考えられる。
- 「一般的な介護の方法」や、「床ずれ防止用具の選び方等」といった、実際の介護に即時に役立てることが可能な情報は、介護者の印象に残っていることがうかがえる。

### ほほえみで印象に残っている記事

(複数回答: 単位%, n=2,725)

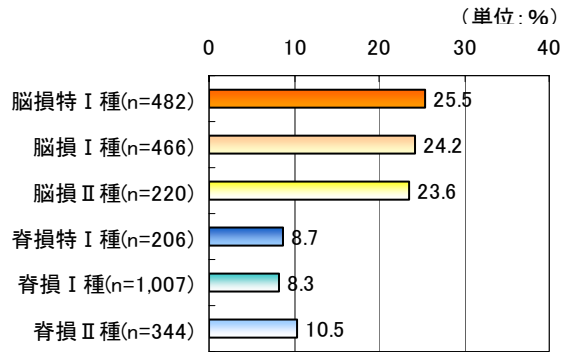


# (11)種別によるほほえみ(過去1年間)で印象に残っている記事②

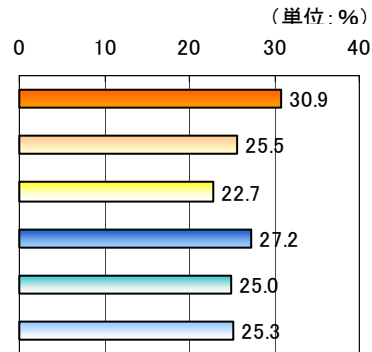


## 種別によるほほえみで印象に残っている記事

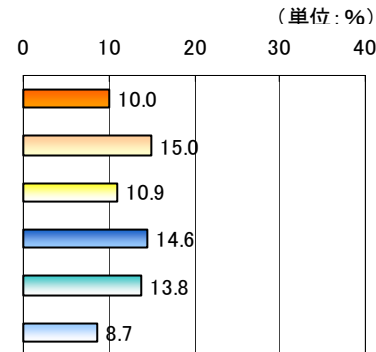
「音楽療法の紹介」



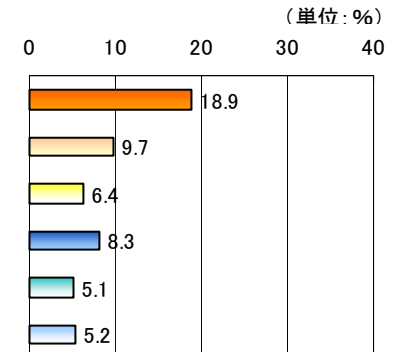
「一般的な介護の方法」



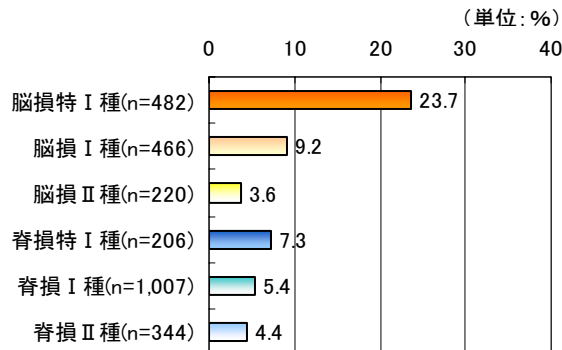
「食事自助具の紹介」



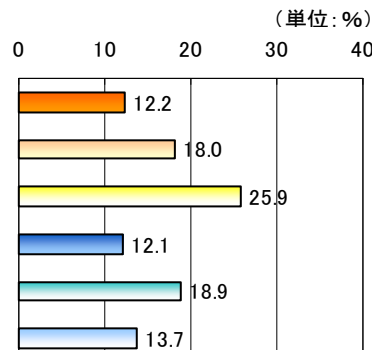
「顔のマッサージ」



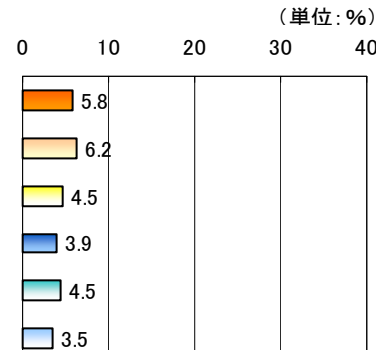
「酢水を使って胃瘻チューブの汚れ防止」



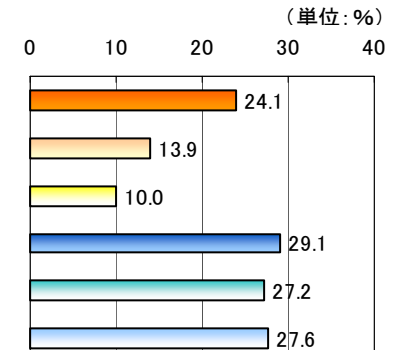
読者が描いた絵画展



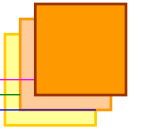
介護相談ゼネラルアドバイザーの紹介



「床ずれ防止用具の選び方等」

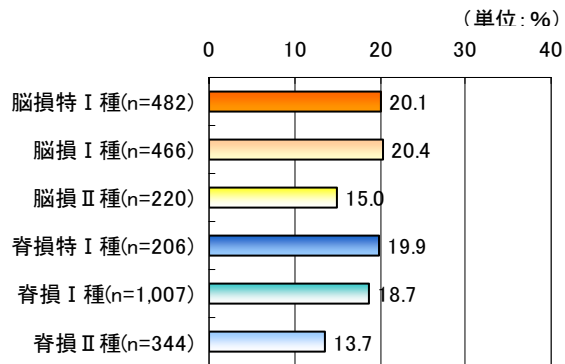


# (11)種別によるほほえみ(過去1年間)で印象に残っている記事 ③

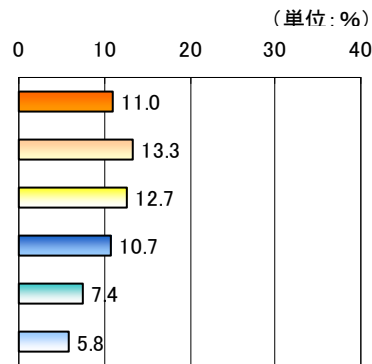


## 種別によるほほえみで印象に残っている記事

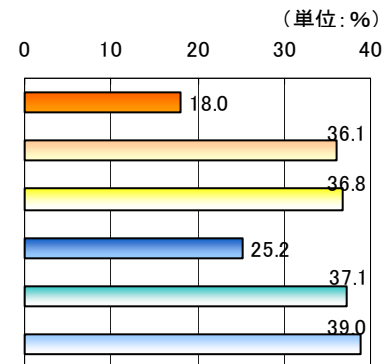
短期入院助成制度のご案内



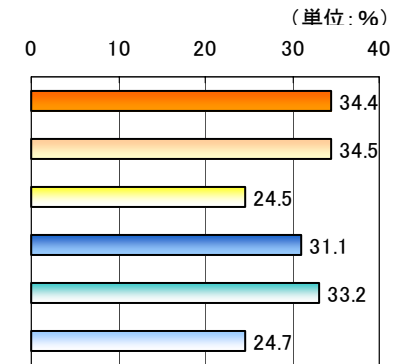
短期入院(入所)利用者の声



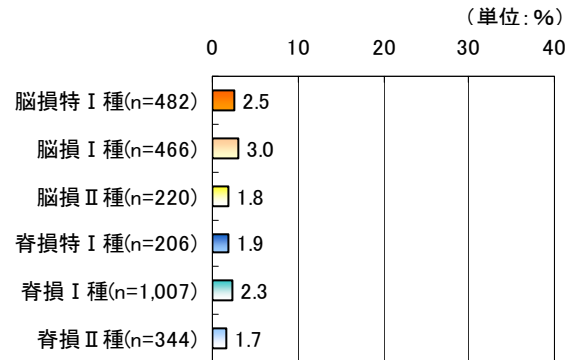
障害者自立支援法のお知らせ



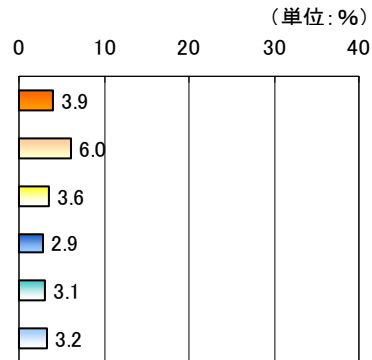
協力病院のご案内



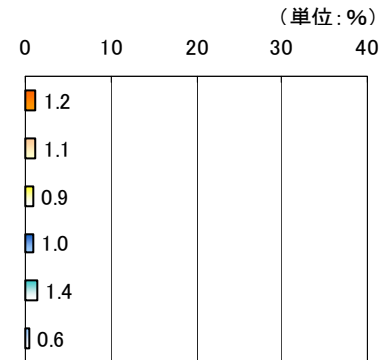
ふれあい広場



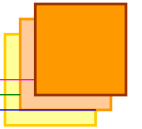
こんにちは在宅介護相談員です



教えてください

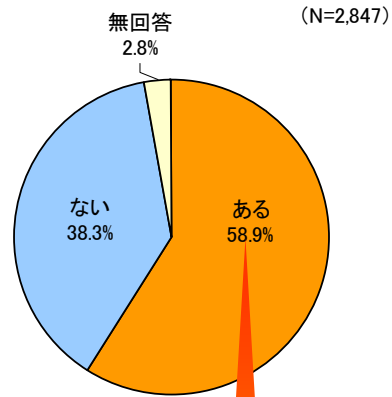


### 3. 支所の対応 (1)支所の職員への問合せ

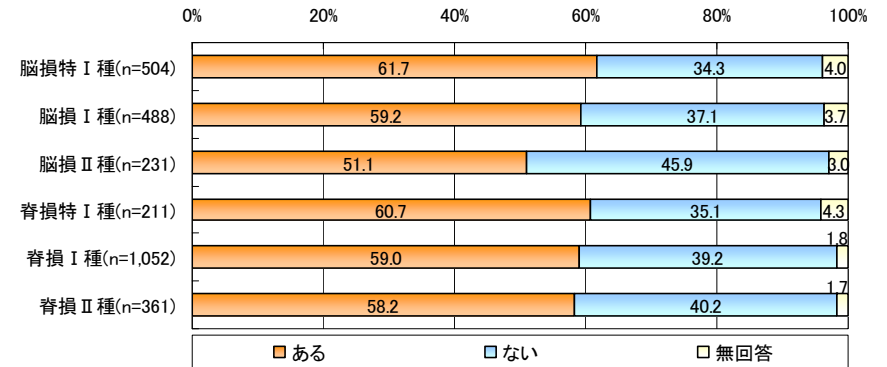


- 支所の職員(介護相談員以外)に問合せをした経験がある回答者は58.9%であり、そのうちの90%近くが「良かった」、「やや良かった」と評価している。

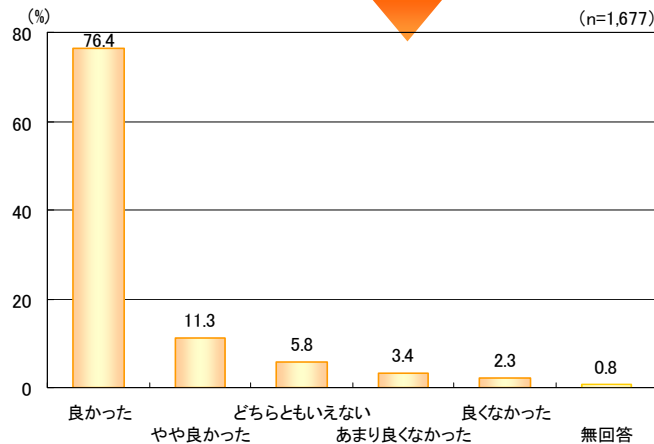
支所の職員への問合せ経験の有無



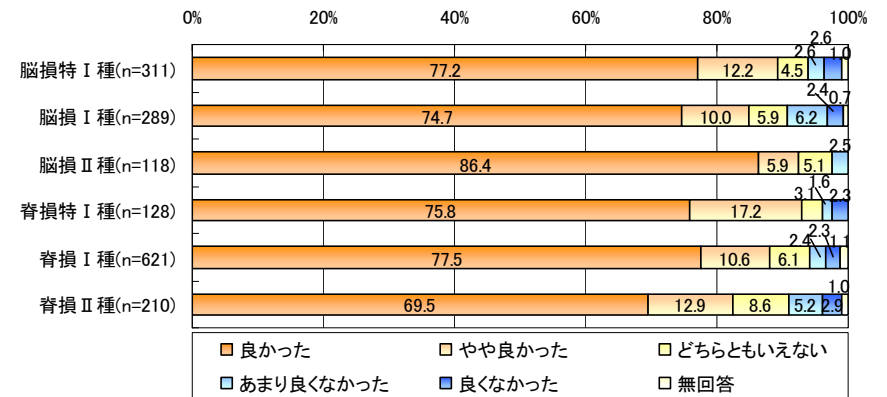
種別による支所の職員への問合せ経験の有無



問合せの際の職員の対応の評価

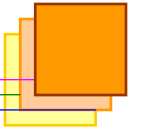


種別による問合せの際の職員の対応の評価



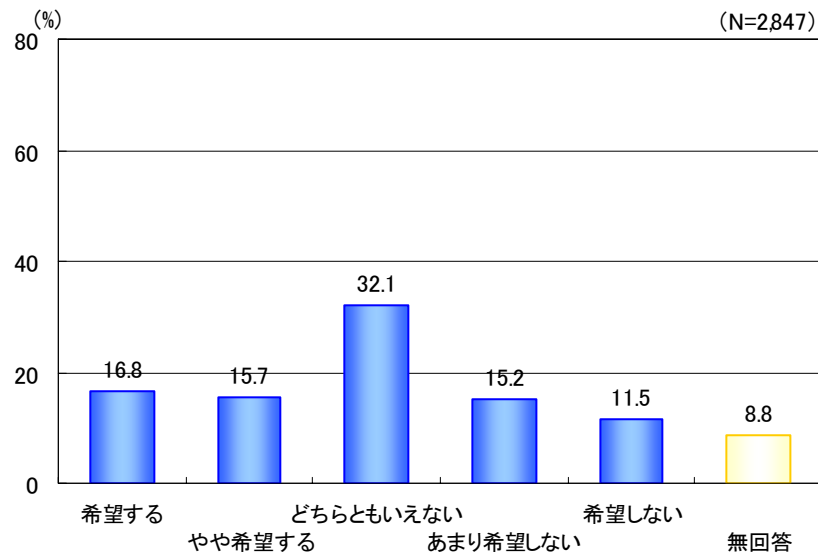
## 4. 在宅介護相談員による相談サービス

### (1) 介護福祉士等による相談サービス、アドバイス・サービスの希望

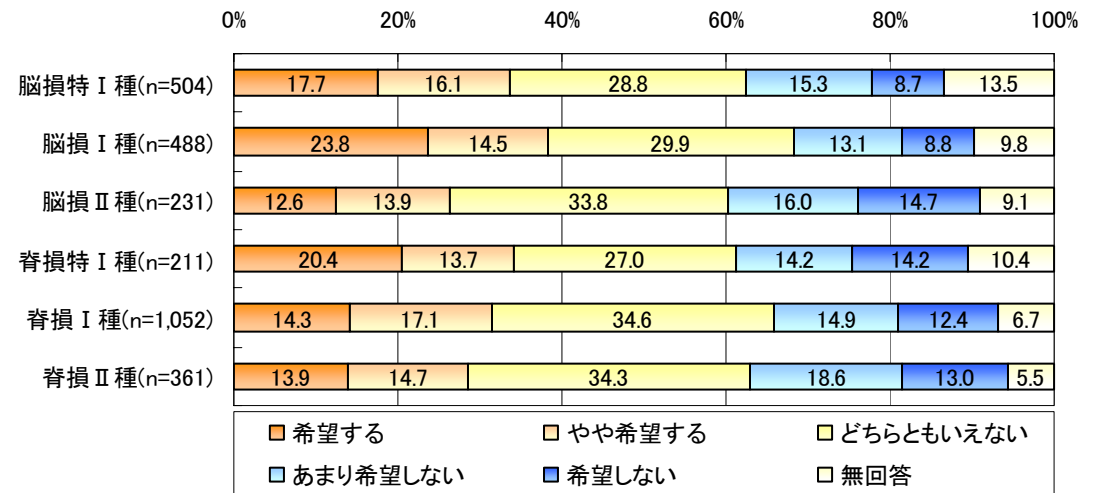


- 介護福祉士等による相談及びアドバイス・サービスの希望は、最も多い「どちらともいえない」(32.1%)を中心として、「希望する」から「希望しない」までばらついている。
- 種別で検討すると、「希望する」との回答の割合は、「脳損 I 種」(23.8%)が最も高く、「やや希望する」と合わせると、40%近くの回答者から希望がある。

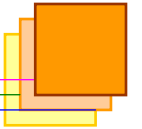
相談・アドバイスサービスの希望



種別による相談・アドバイスサービスの希望

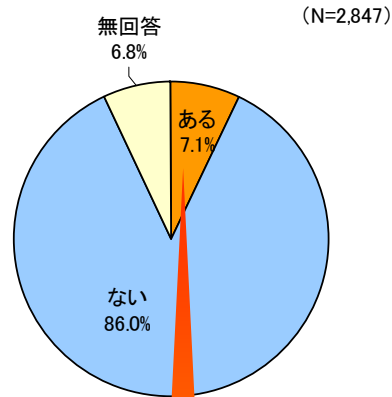


## (2) 在宅介護相談員への相談

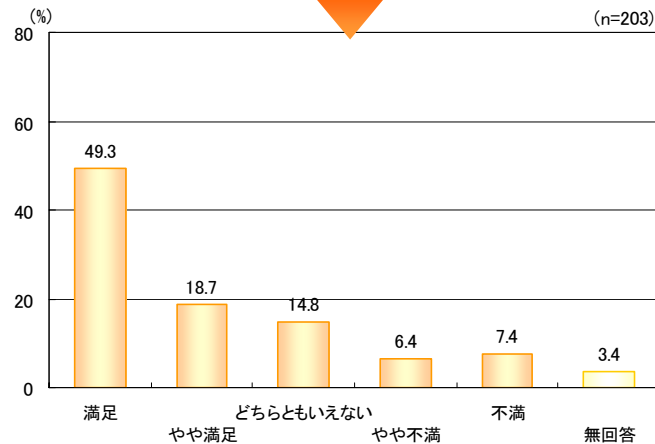


- 主管支所における在宅介護相談員に相談したことが「ある」との回答は7.1%にとどまっている。
- 在宅介護相談員への相談経験が「ある」回答者を対象に、電話相談の評価を求めた結果、半数近くが「満足」と回答している。「不満」、「やや不満」の割合は10%強である。
- 電話相談の評価を種別で検討すると、「脊損特I種」では、「満足」が70.0%であり、高い満足感を得ている。一方で脳損I種では「不満」、「やや不満」の割合が他の種別よりも高くなっている。

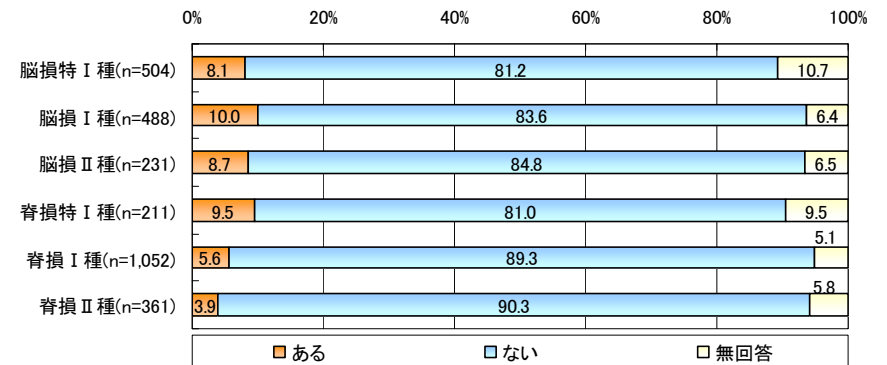
### 在宅介護相談員への相談経験の有無



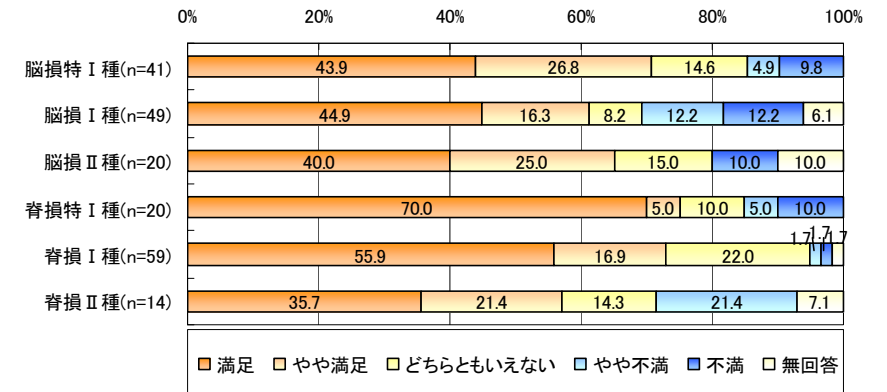
### 在宅介護相談員への電話相談の評価



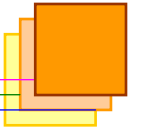
### 種別による在宅介護相談員への相談経験の有無



### 種別による在宅介護相談員への電話相談の評価

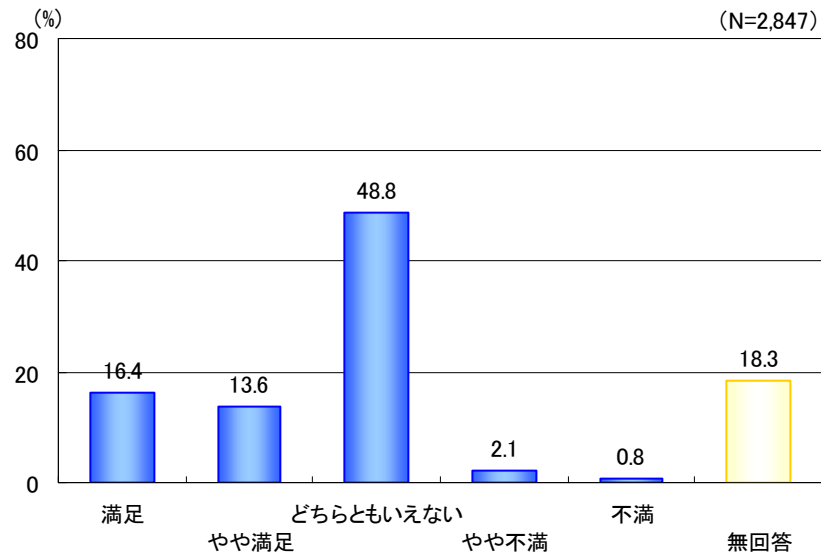


### (3) 機構の介護に関する相談体制の満足度

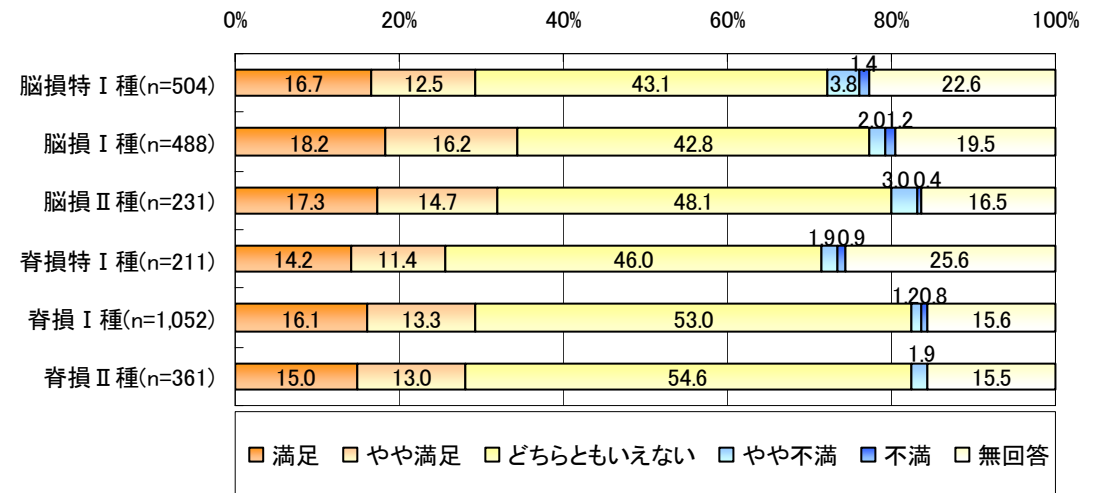


- 「機構の介護に関する相談体制の満足度」については、「どちらともいえない」が最も多く48.8%を占めている。「満足」、「やや満足」とを合わせると30.0%となっている。
- 種別より、機構の介護に関する相談体制についての満足度に顕著な差は見られない。

機構の介護に関する相談体制の満足度

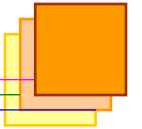


種別による機構の介護に関する相談体制の満足度



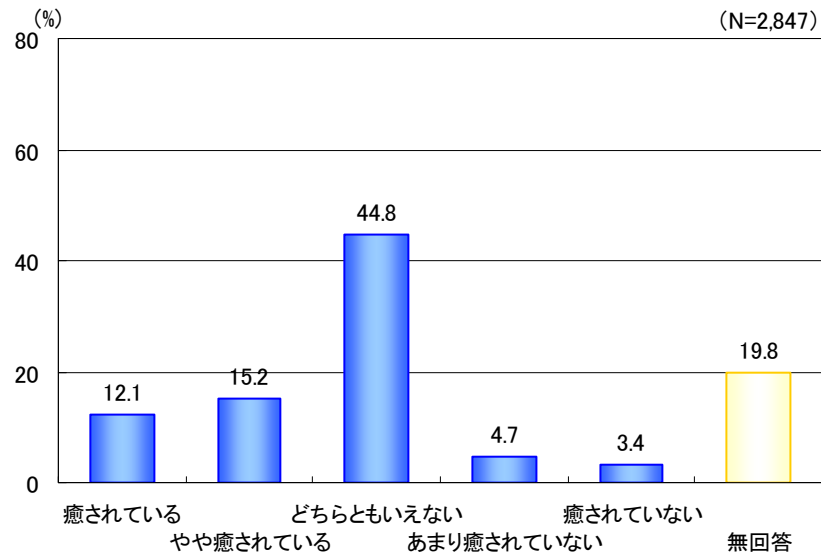


## (4) 機構の相談体制や精神的サポートによる癒し

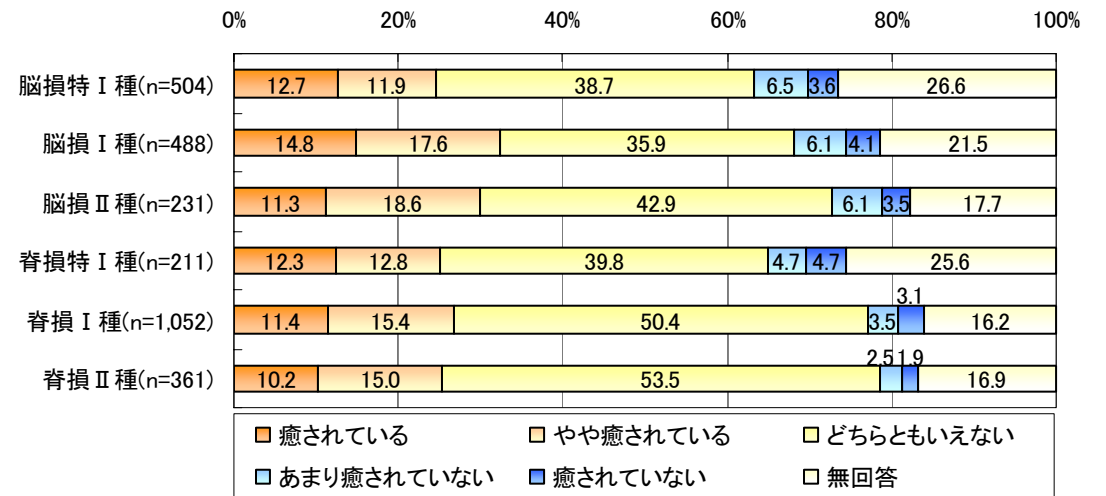


- 「機構の精神的サポートによる癒し」については、「どちらともいえない」が44.8%を占めている。
- 癒しを得ている(「癒されている」(12.1%)、「やや癒されている」(15.2%))回答者は30%に届いておらず、介護者の癒しにつながる精神的なサポートは十分ではないことがうかがえる。

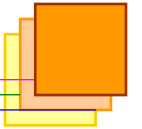
機構の精神的サポートによる癒し



種別による機構の精神的サポートによる癒し

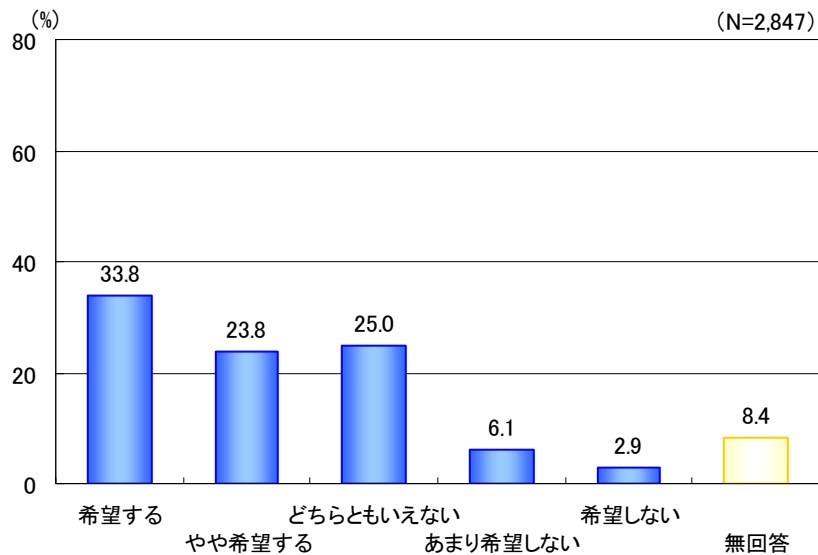


## (5) 専門的な回答が得られる相談体制

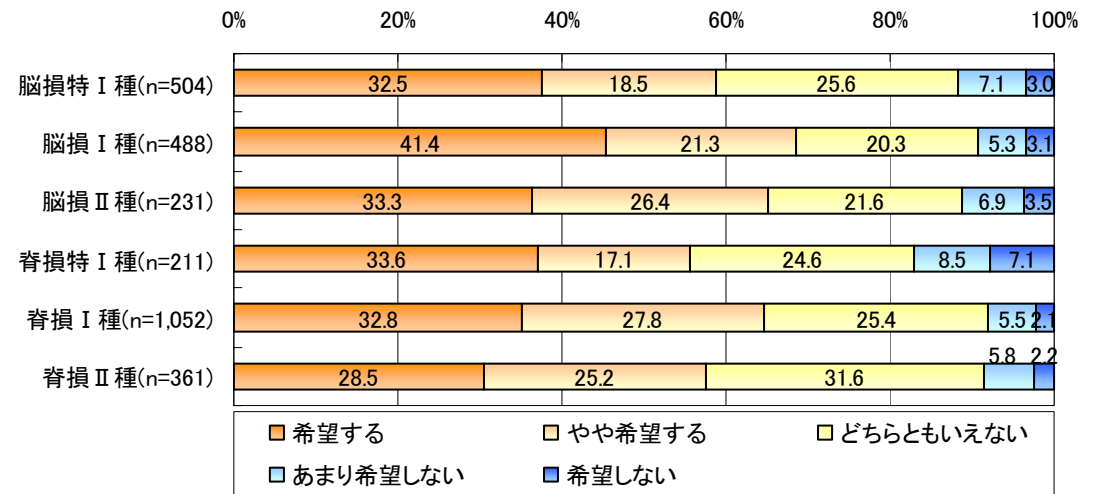


- 現在の在宅介護相談員による相談に加えて、「専門的な回答が得られる相談体制」を希望する回答者は、「希望する」(33.8%)、「やや希望する」(23.8%)とを合わせて60%近くにのぼっている。
- 高次脳機能障害を有する「脳損Ⅰ種」、「脳損Ⅱ種」、また、「脊損Ⅰ種」においては、希望が強く、「希望する」、「やや希望する」の割合が高くなっている。

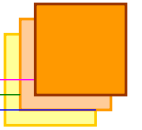
専門的な回答が得られる相談体制の希望



種別による専門的な回答が得られる相談体制の希望

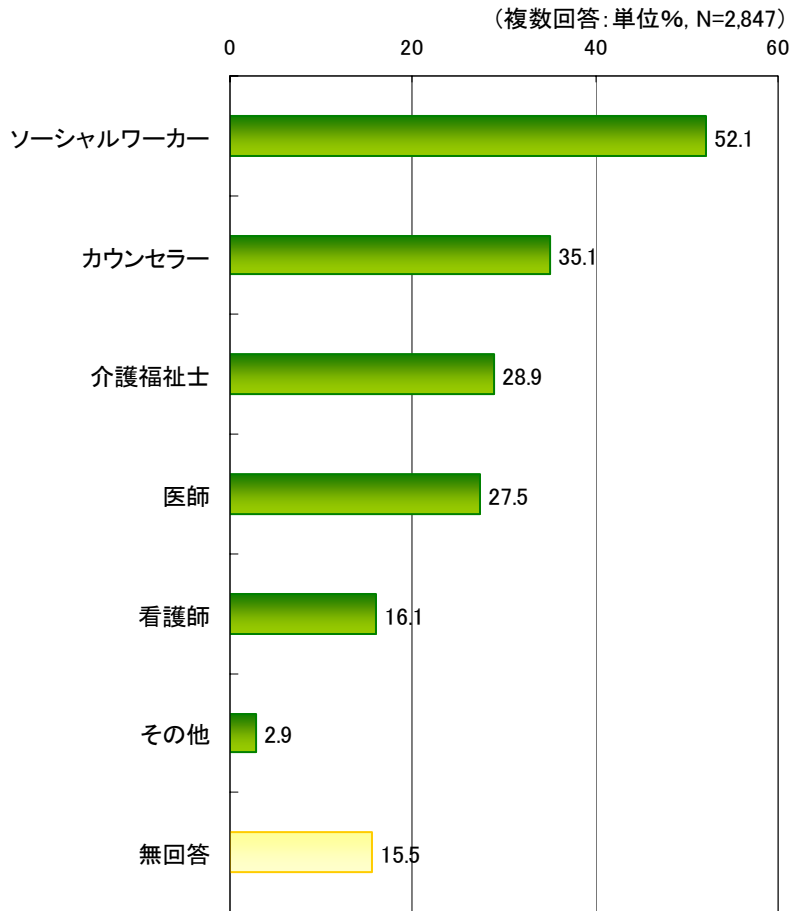


## (6) 相談員が専門とする領域の希望

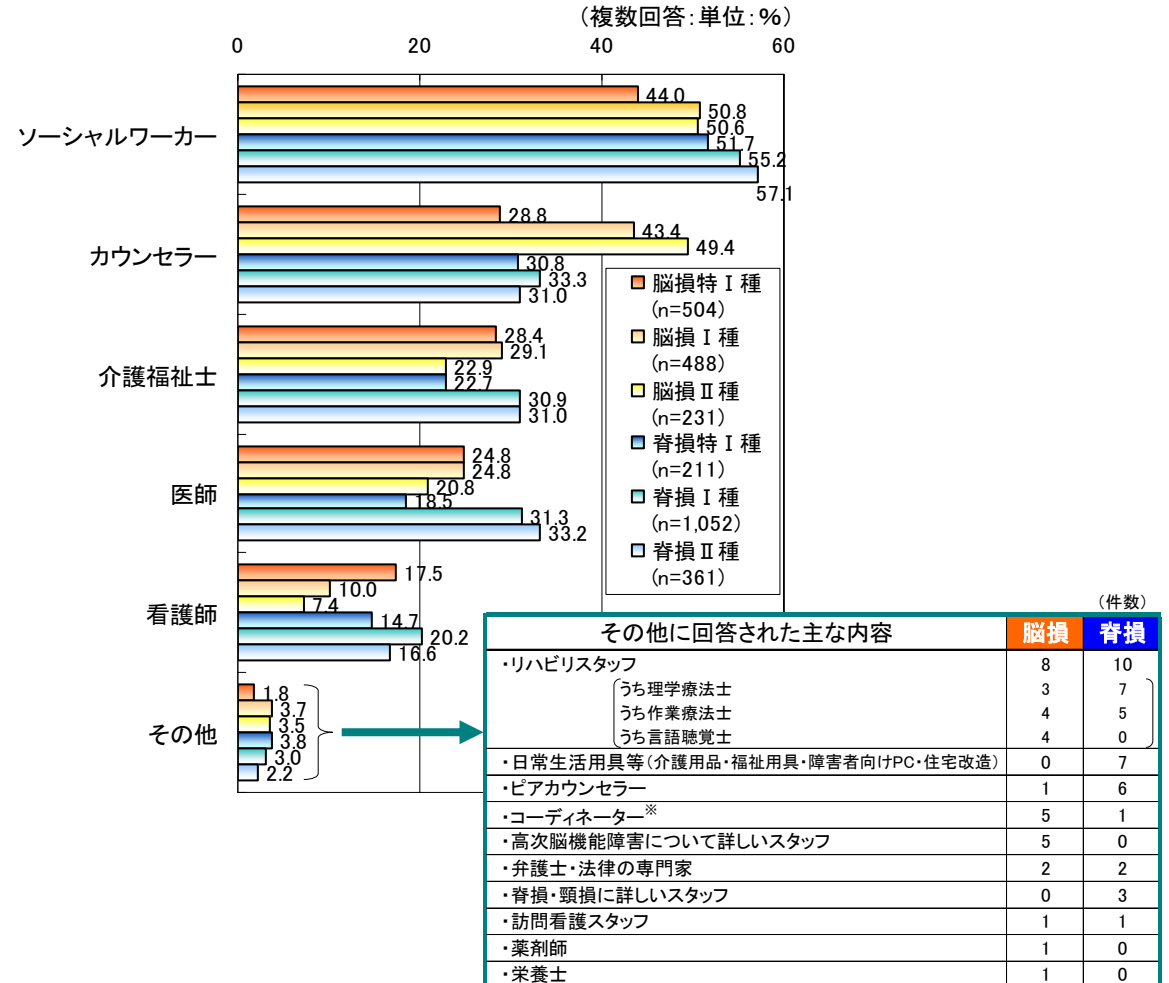


- 配置される相談員が専門とする領域については、過半数が公的制度等に詳しい「ソーシャルワーカー」を挙げている。
- 種別で検討すると、「脊損Ⅰ種」、「脊損Ⅱ種」では、「ソーシャルワーカー」の配置の希望が他の種別より比較的高い。
- 受給者が高次脳機能障害を有している「脳損Ⅰ種」、「脳損Ⅱ種」においては、介護に伴う精神的な悩み等を打ち明けられる「カウンセラー」を希望する回答者の割合が特に高い。

相談員が専門とする領域の希望

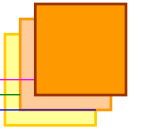


種別による相談員が専門とする領域の希望



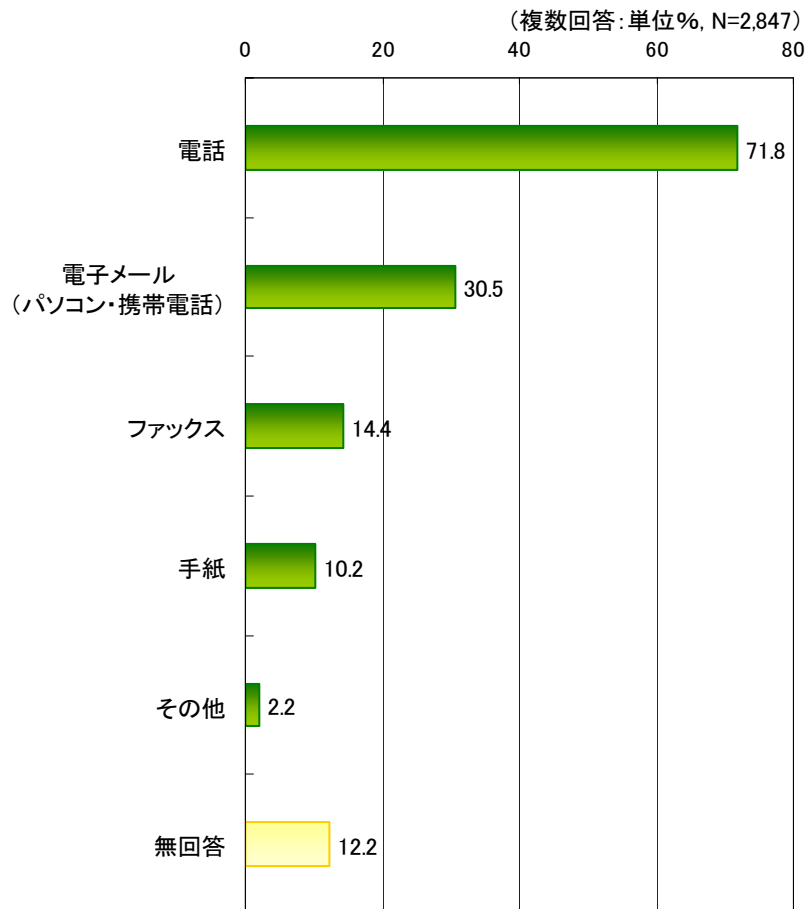
※ 病院・役所等の公的機関への連絡・紹介・付添い等が可能なスタッフ

## (7) 希望する相談方法

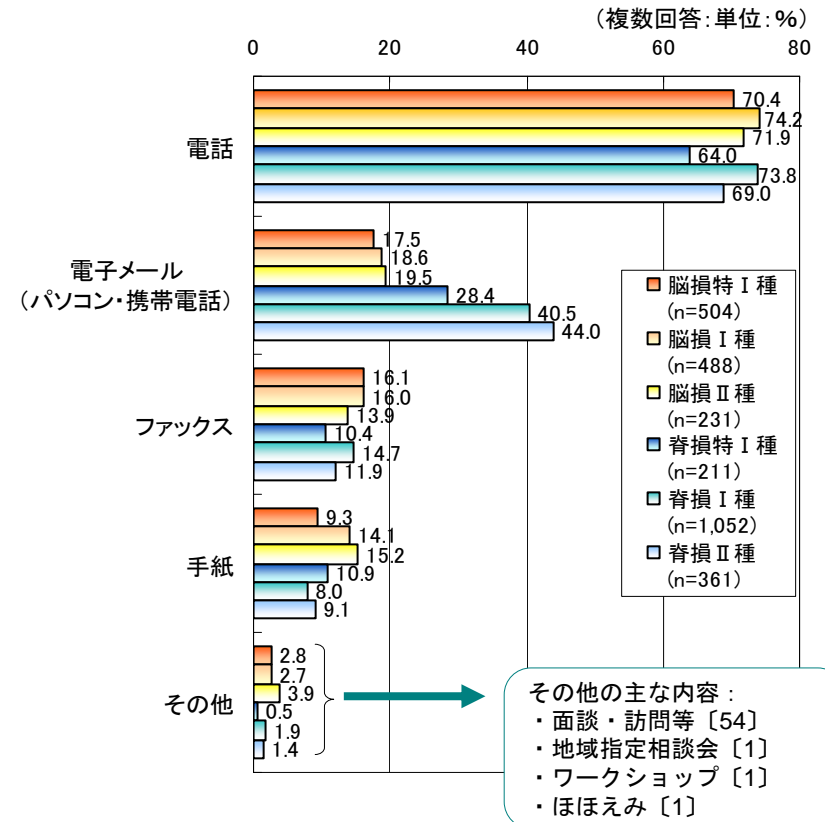


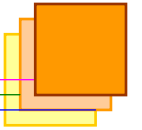
- 希望する相談方法としては、「電話」(71.8%)が圧倒的に多いが、「電子メール」も30%以上の回答者から希望されている。
- 種別で検討すると、「脊損Ⅰ種」、「脊損Ⅱ種」においては、「電子メール」を挙げる回答者の割合が高い。

希望する相談方法



種別による希望する相談方法

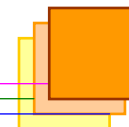




### Ⅲ. 在宅介護サービス、介護用品に関する項目

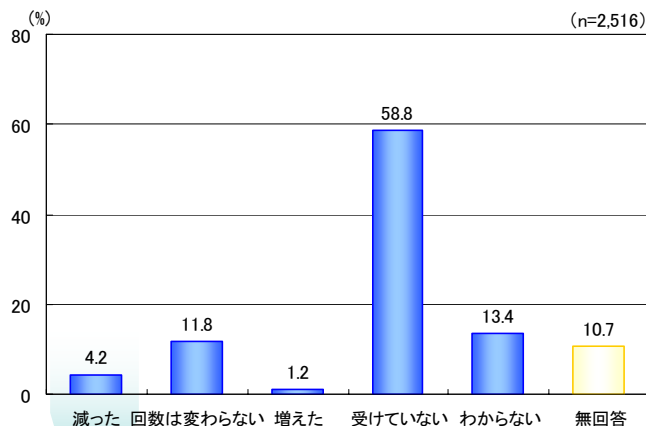
# 1.在宅介護者の移送サービス

## (1)自立支援法の施行による移送サービスの回数変化

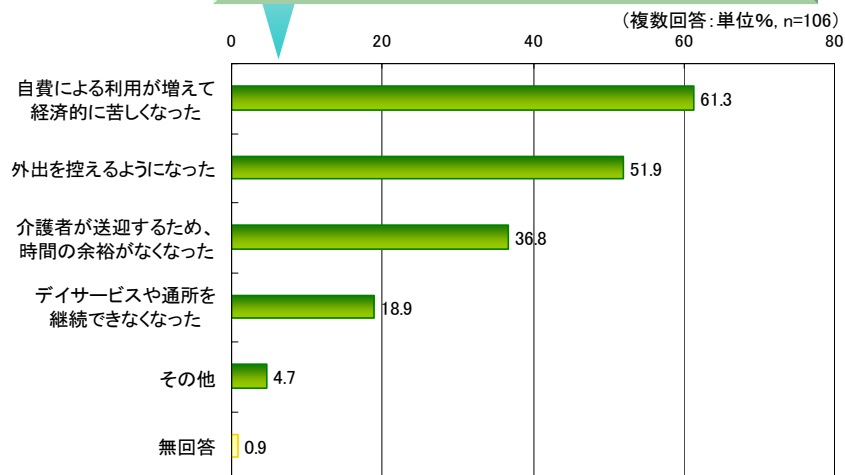


- 自立支援法移行後の移送サービスの回数変化について質問したところ、移送サービスを「受けていない」受給者が60%近くを占める結果となった。
- 「減った」と回答したのは4.2%であり、そのうちの61.3%が「自費による利用が増えて経済的に苦しくなった」と回答している。また、51.9%が「外出を控えるようになった」と回答しており、経済的負担増と、社会参加の減少という問題が発生していることがうかがえる。

### 移送サービスの回数の変化

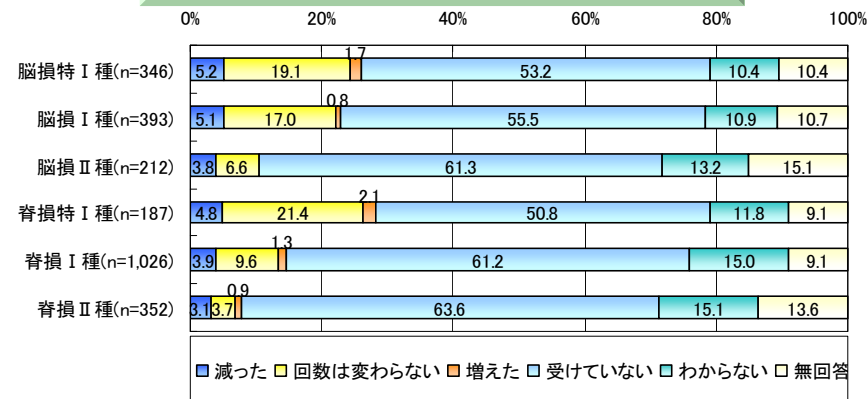


### 移送サービスの減少の影響

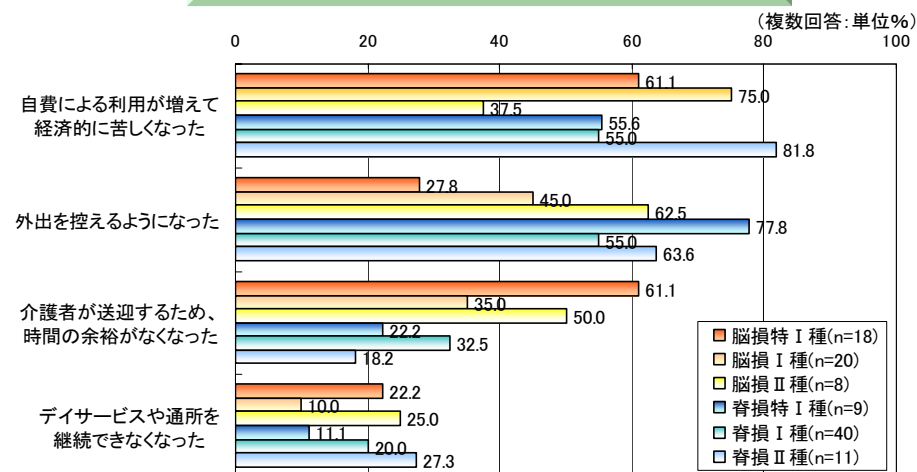


※ 「減った」と回答した106名について集計

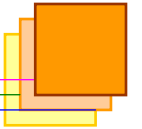
### 種別による移送サービスの回数の変化



### 種別による移送サービスの減少の影響

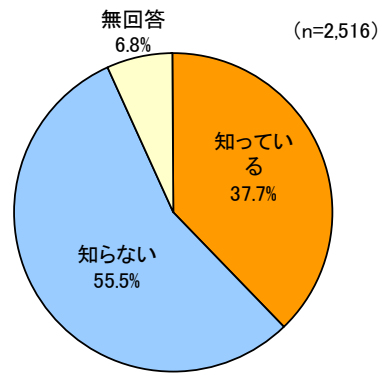


## (2) 福祉有償運送の認知及び情報提供の希望

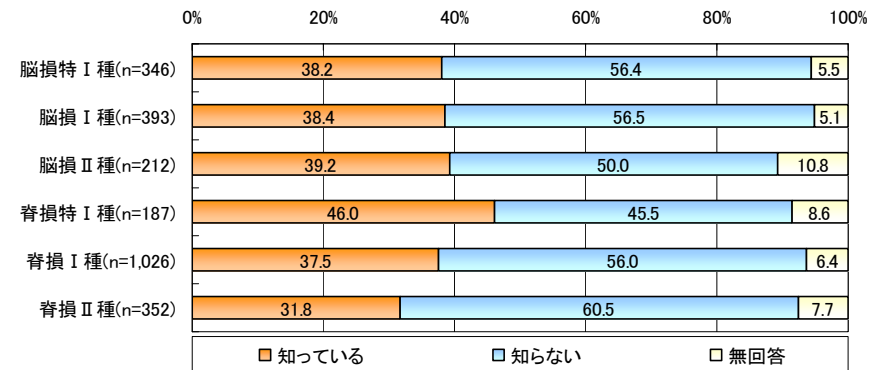


- 福祉有償運送について、「知っている」と回答したのは37.7%にとどまり、「知らない」回答者の割合は過半数となっている。
- 福祉有償運送に関する情報提供は、44.6%の回答者から希望されている。

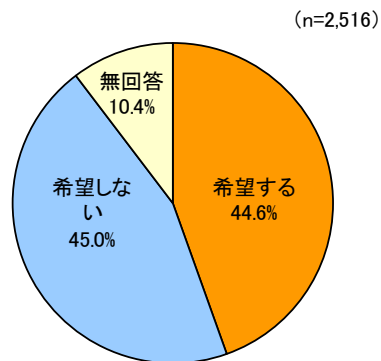
### 福祉有償運送の認知



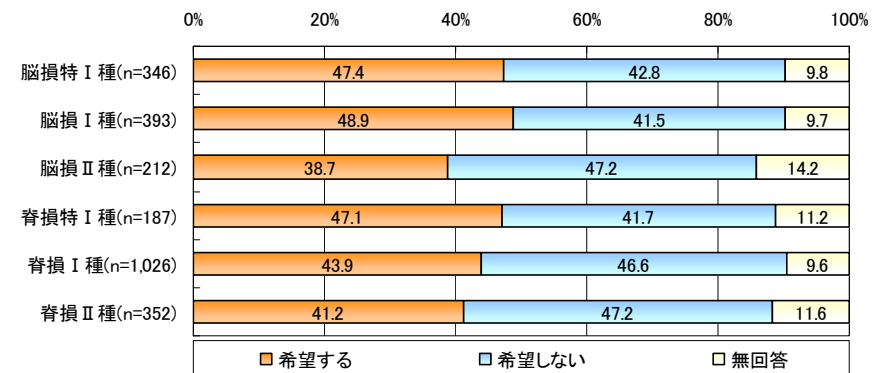
### 種別による福祉有償運送の認知



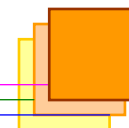
### 福祉有償運送に関する情報提供の希望



### 種別による福祉有償運送に関する情報提供の希望

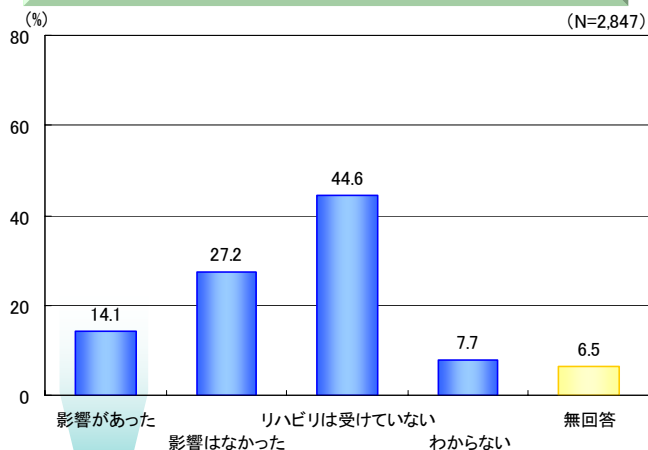


## 2.診療報酬改訂のリハビリへの影響 (1)リハビリ減少の影響の有無とその内容

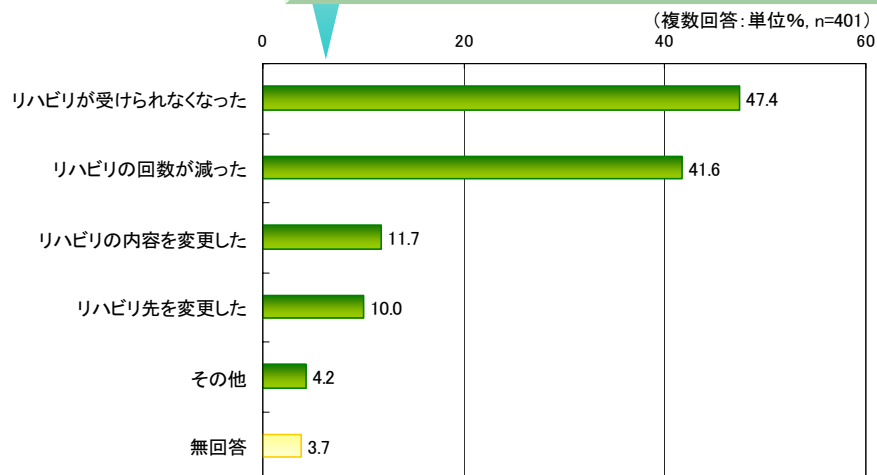


- 平成18年4月における診療報酬改訂により、「影響があった」のは14.1%である。全体の44.6%は「リハビリは受けていない」と回答している。
- 「リハビリが受けられなくなった」が47.4%にのぼっており、「リハビリの回数が減った」(41.6%)が続いている。
- 種別で検討すると、「脳損 I 種」では、「影響があった」との回答が、他の種別よりも比較的高くなっている。

### 診療報酬改訂のリハビリへの影響

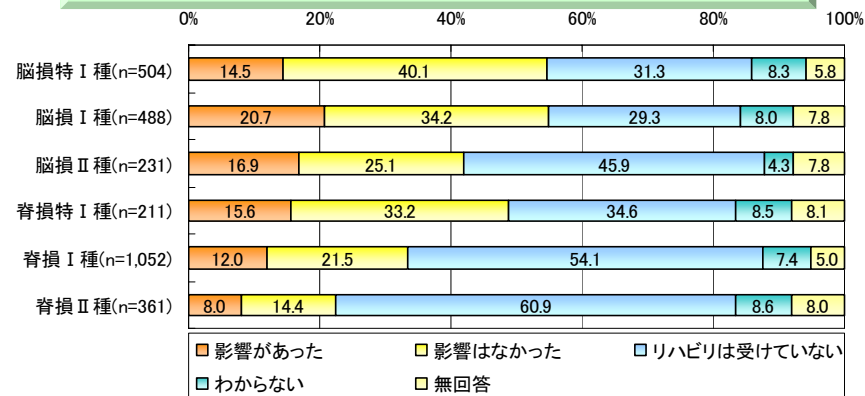


### リハビリの減少の影響の内容

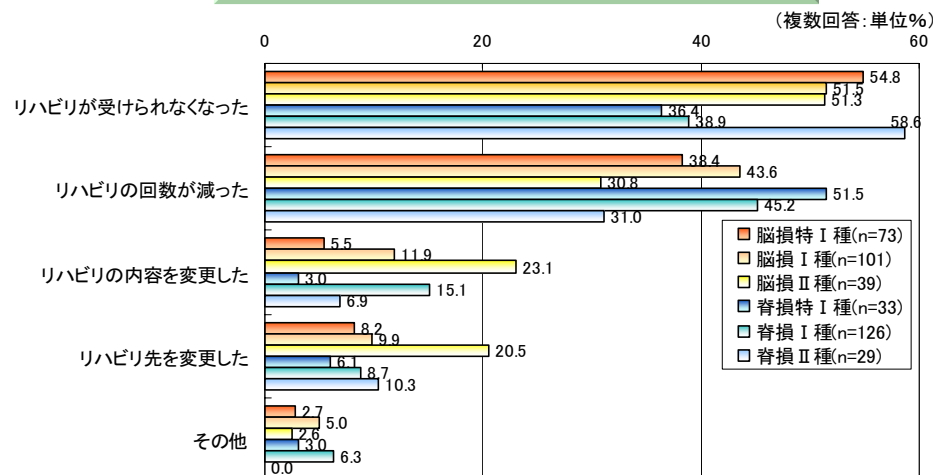


※ 「減った」と回答した106名について集計

### 種別による診療報酬改訂のリハビリへの影響



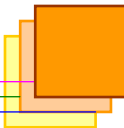
### 種別によるリハビリ減少の影響の内容





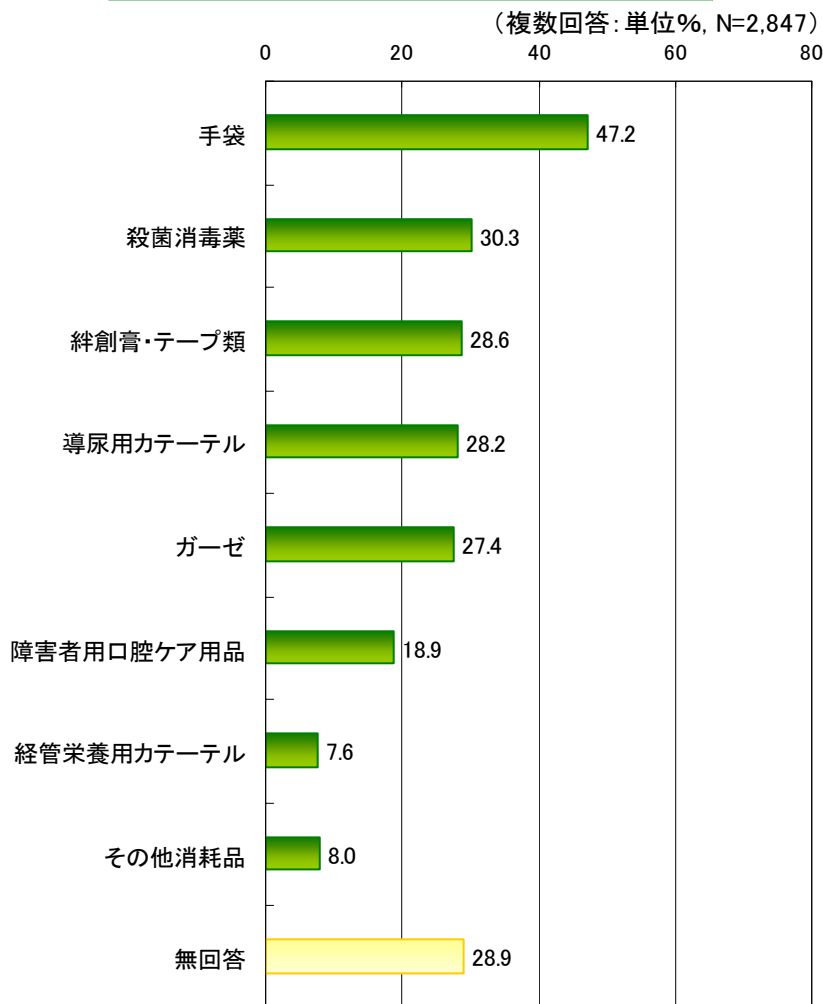
### 3.介護料の支給対象に追加を希望する消耗品

#### (1)支給対象に追加を希望する消耗品、及び種別による検討

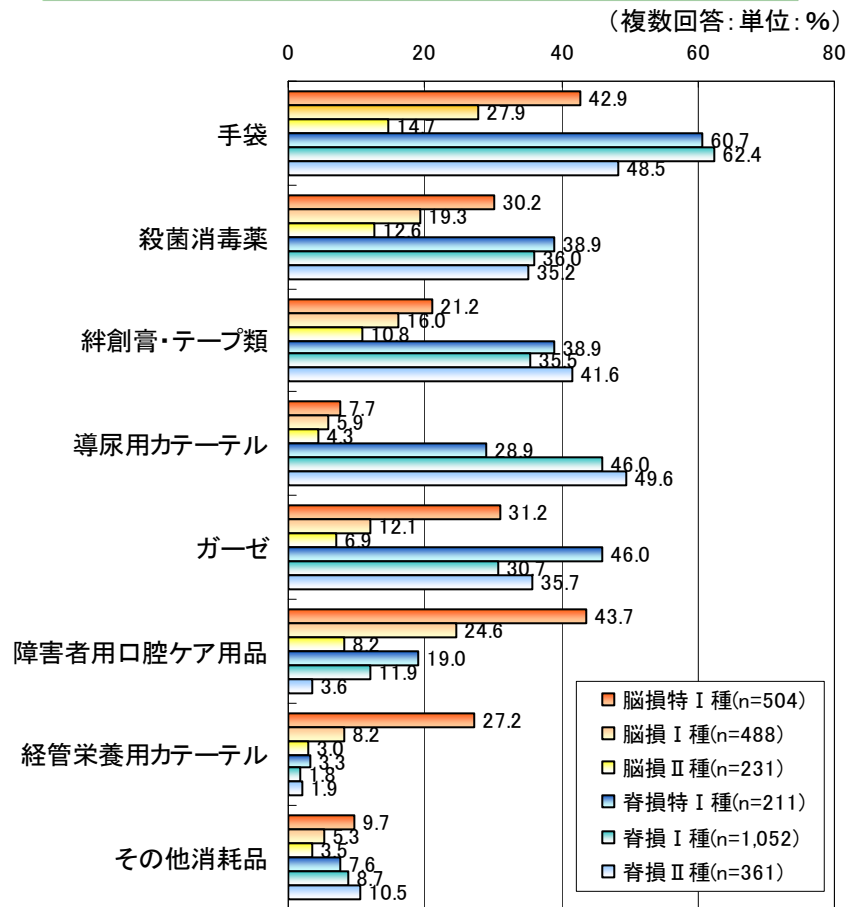


- 現在、介護料支給対象となっている品目以外に、支給対象として追加されることを希望する消耗品としては、特に「手袋」(47.2%)が多い。
- 種別で検討すると、摘便を行う脊損では、「脊損特I種」及び「脊損I種」において60%以上の回答者が希望している。
- 脊損の回答者からは、「手袋」の次に「導尿用カテーテル」の希望が強く、「殺菌消毒薬」、「絆創膏・テープ類」、「ガーゼ」等も高い割合となっている。
- 脳損特I種については、「障害者用口腔ケア用品」(43.7%)、「手袋」(42.9%)が多い。また、他の種別と比較して「経管栄養用カテーテル」の希望が高くなっている。

支給対象に追加を希望する消耗品

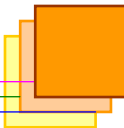


種別による支給対象に追加を希望する消耗品



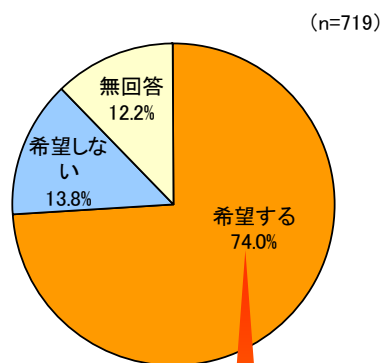
## 4.脳損 I 種・II 種の高次脳機能障害についての情報提供の希望

### (1) 高次脳機能障害についての情報提供の希望

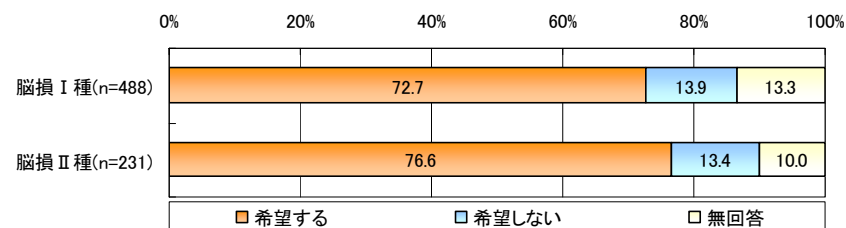


- 脳損 I 種及び II 種の介護者に対し、高次脳機能障害についての情報提供を希望するかを質問した結果、「希望する」が74.0%という高い割合となっている。
- 希望されている情報の内容としては、「リハビリや機能回復訓練等に関する情報」が最も多く、78.9%にのぼっている。
- 「高次脳機能障害者に対する家族のかかわり」(63.9%)、「病院やリハビリ施設に関する情報」(59.4%)が上位となり、脳損 I 種・II 種の介護者の負担感の強さを反映する結果となっている。

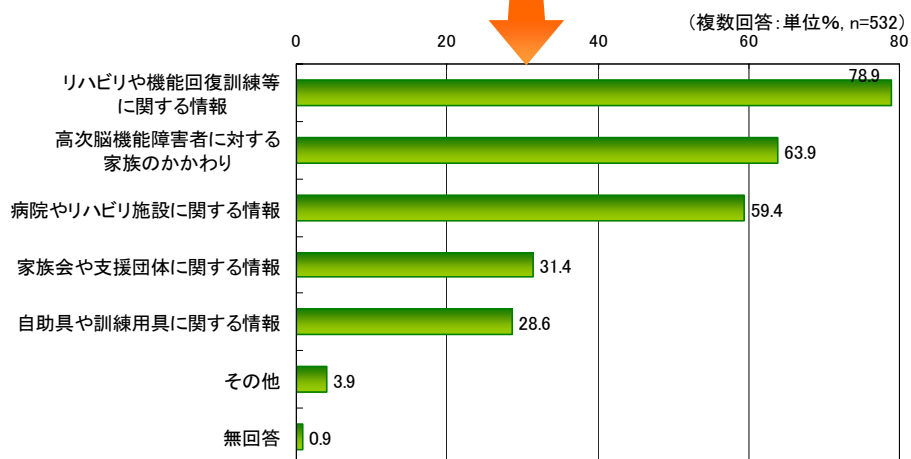
#### 情報提供の希望



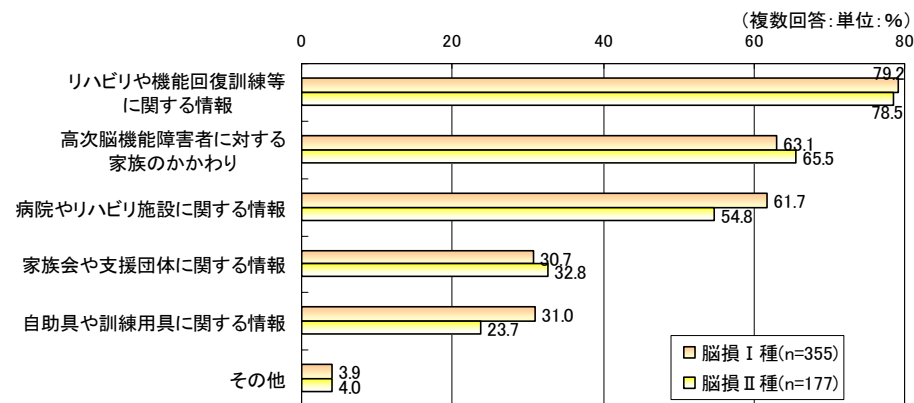
#### 種別による情報提供の希望



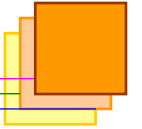
#### 提供を希望する情報の内容



#### 種別による提供を希望する情報の内容



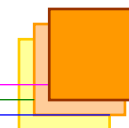
※ 「希望する」と回答した532名について集計



## IV. 協力病院に関する項目

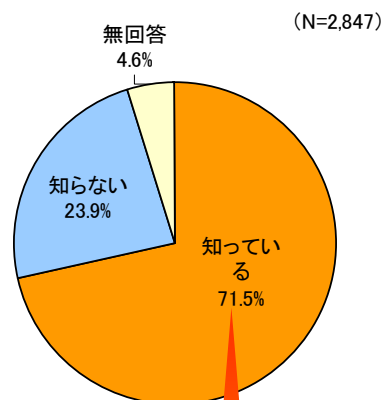
# 1. 協力病院の短期入院制度

## (1) 短期入院制度の認知度と利用経験者の割合

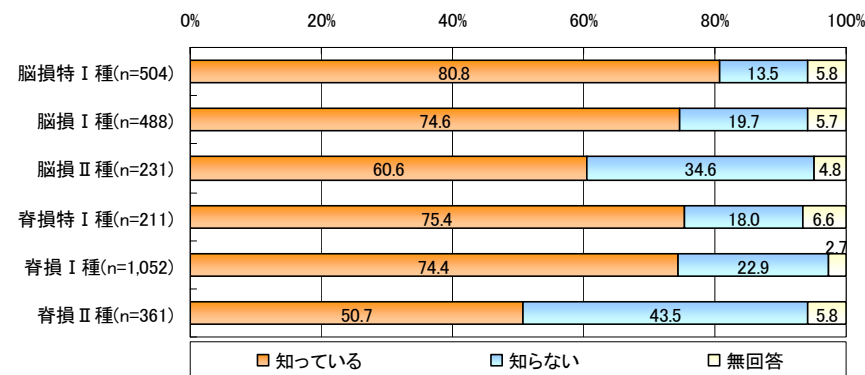


- 協力病院の短期入院制度については、「知っている」が71.5%であるが、「知らない」も23.6%を占めている。
- 短期入院制度を「知っている」と回答した者を対象に、利用経験の有無について質問した結果、「利用したことがある」は3.2%にとどまっている。

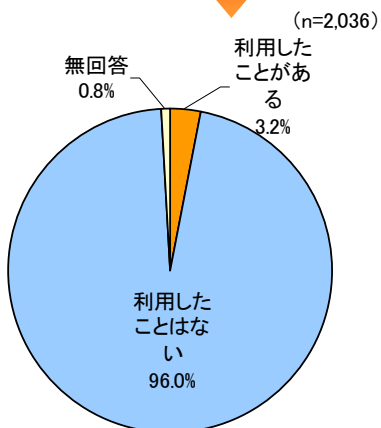
短期入院制度の認知度



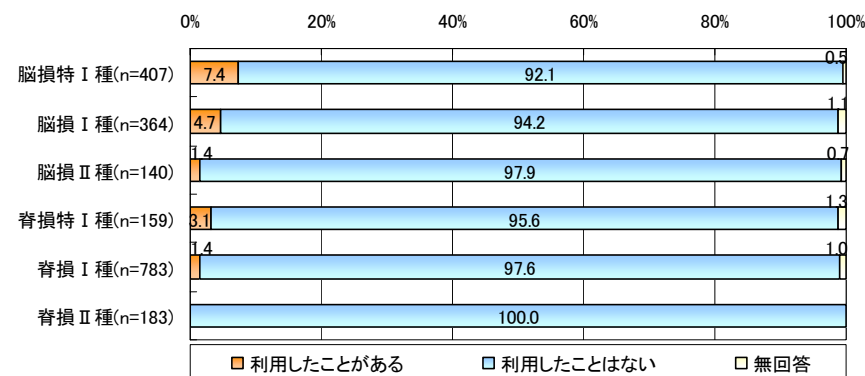
種別による短期入院制度の認知度



利用経験者の割合

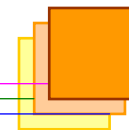


種別による利用経験者の割合



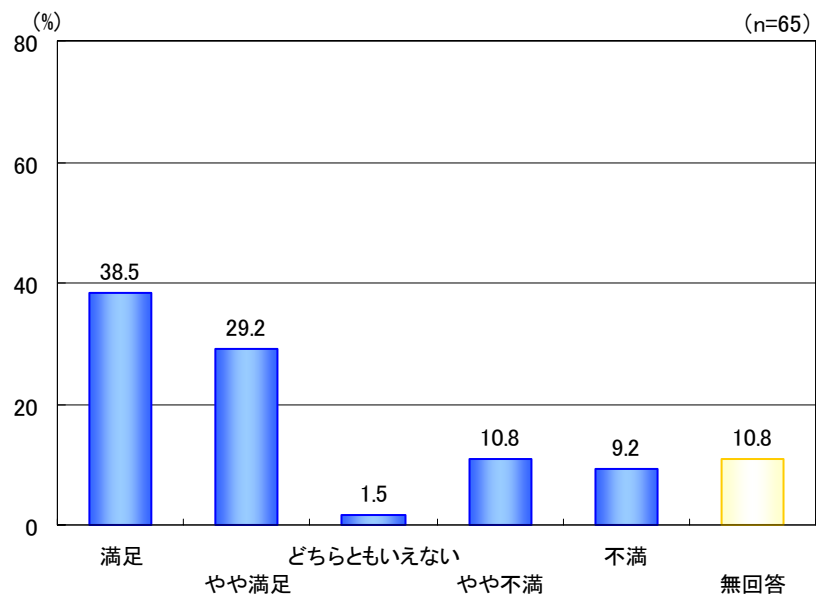
※ 「知っている」と回答した2,036名について集計

## (2) 短期入院制度を利用した感想



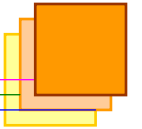
- 短期入院制度を利用したことがある回答者のうち、70%近くは満足感を得ているが、約20%は不満である(「不満」、「やや不満」と回答している)。

### 短期入院制度を利用した感想



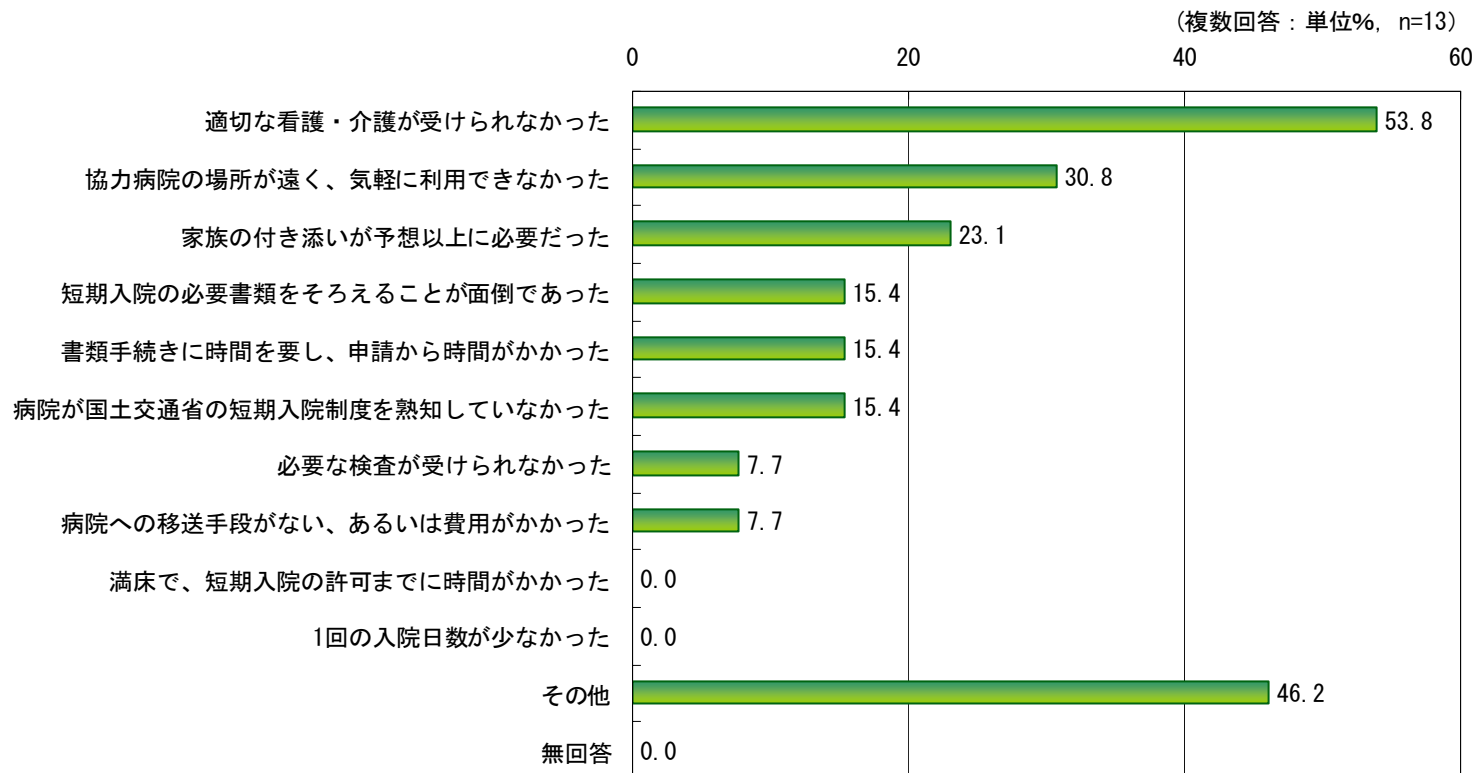
※ 「利用したことがある」と回答した65名について集計

### (3) 協力病院の短期入院が不満であった理由



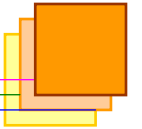
- 短期入院を利用して「不満」、「やや不満」と回答した者の過半数が、不満であった理由として「適切な看護・介護が受けられなかった」ことを挙げている。

#### 協力病院の短期入院が不満であったと感じる理由



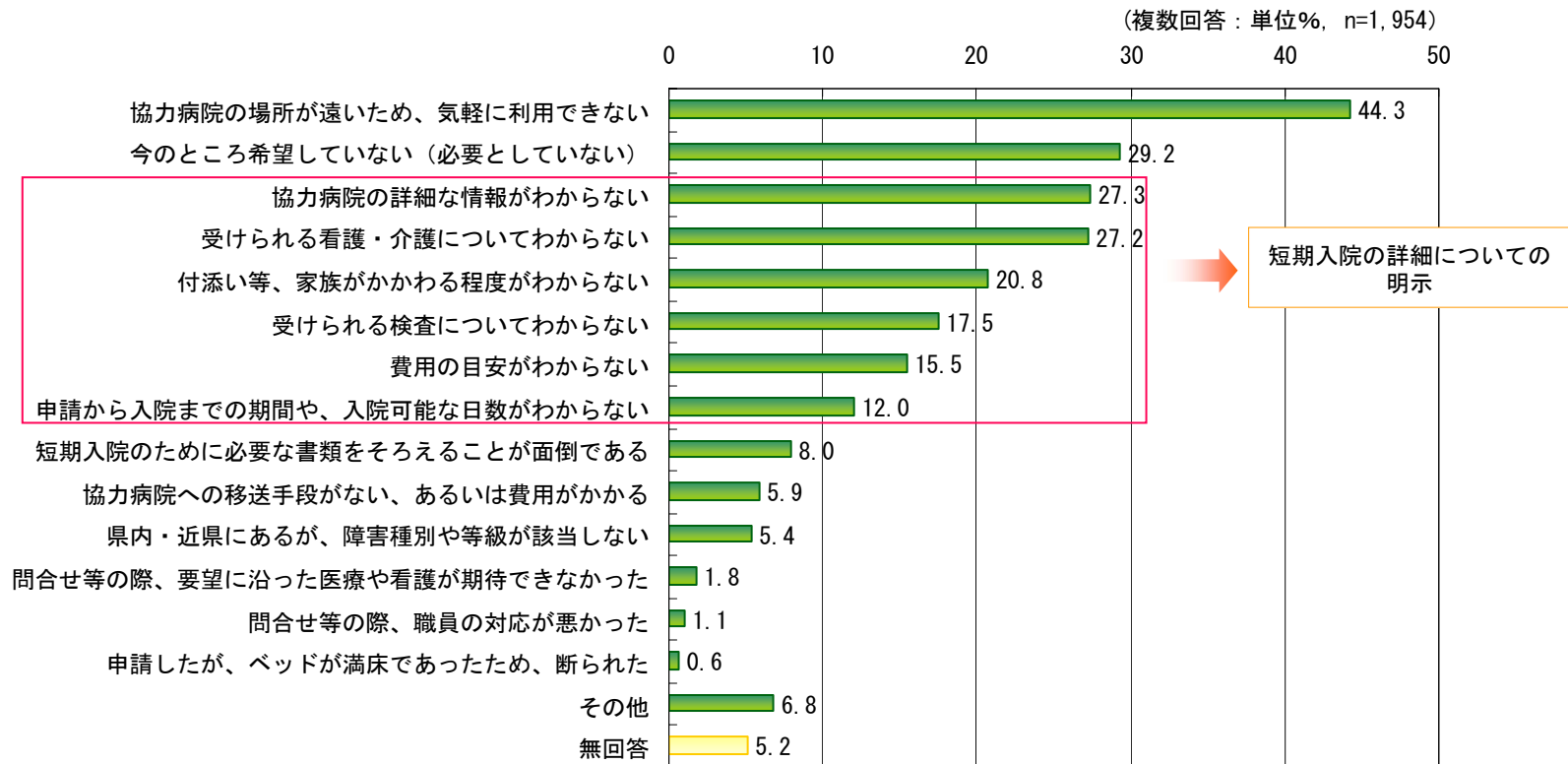
※ 短期入院を利用したことがあると回答した者のうち、「やや不満」「不満」と回答した13名について集計

## (4) 協力病院の短期入院を利用していない理由



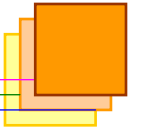
- 短期入院を知っていながら利用した経験がない回答者を対象に、協力病院の短期入院を利用していない理由について質問した結果、「協力病院の場所が遠いため、気軽に利用できない」(44.3%)が最も多い。
- 「今のところ希望していない(必要としていない)」も29.2%を占めている。
- 「協力病院の詳細な情報がわからない」、「受けられる看護・介護についてわからない」との回答も多いため、短期入院についての情報提供により、利用者増も期待される。

### 協力病院の短期入院を利用していない理由



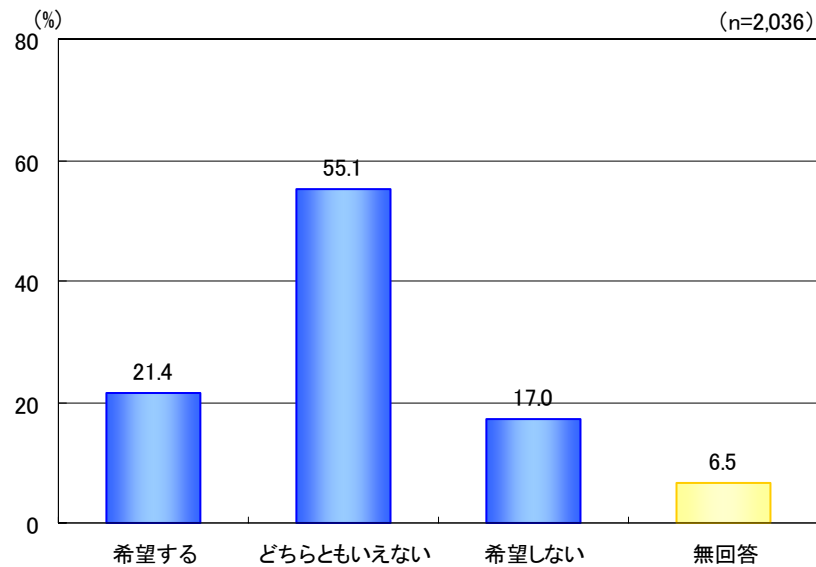
※ 短期入院を知っている者のうち、利用したことはないと回答した1,954名について集計

## (5) 短期入院制度についての情報提供の希望

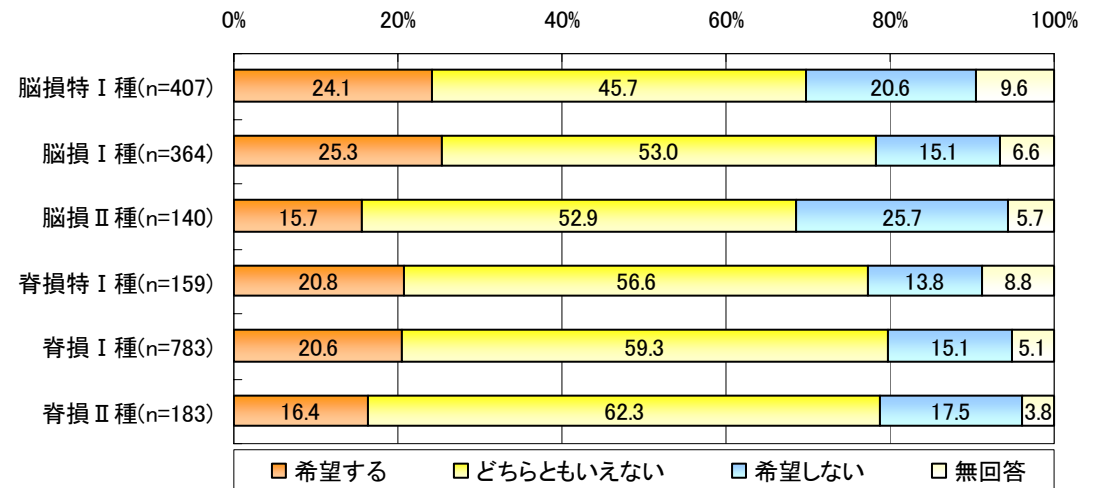


- 短期入院制度についての情報提供を希望するかどうか質問した結果、半数以上が「どちらともいえない」と回答しているが、「脳損Ⅰ種」、「脳損特Ⅰ種」では、「希望する」の割合が比較的高くなっている。

情報提供の希望

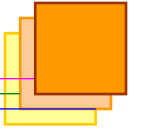


種別による情報提供の希望



※ 短期入院を「知っている」と回答した2,036名について集計

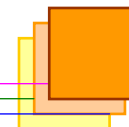




## V. 療護センターに関する項目

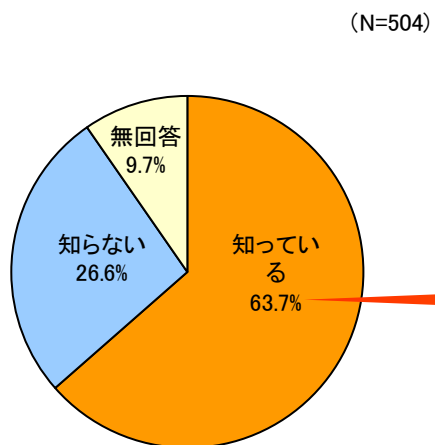
# 1. 療護センター

## (1) 療護センターの認知

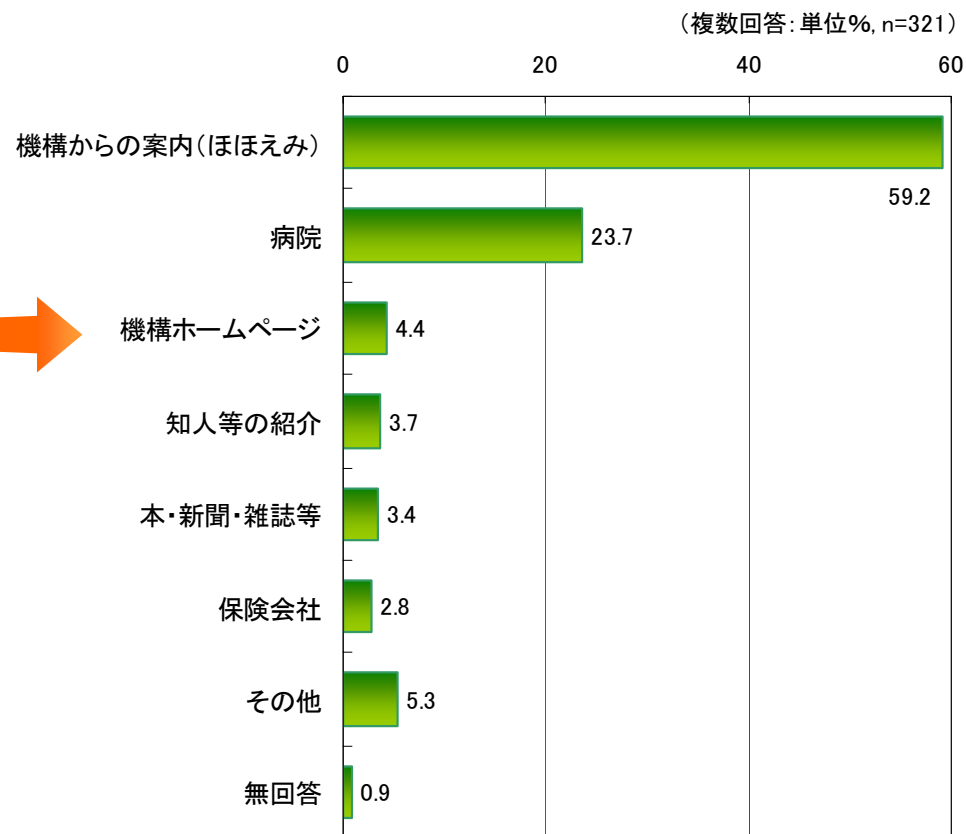


- 療護センターを「知っている」が63.7%であるが、「知らない」も26.6%を占めている。
- 療護センターを「知っている」回答者を対象に認知方法について質問した結果、「機構からの案内(ほほえみ)」が69.2%で他の方法を大きく上回っている。

### 療護センターの認知

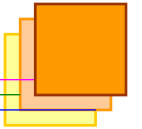


### 療護センターの認知の方法



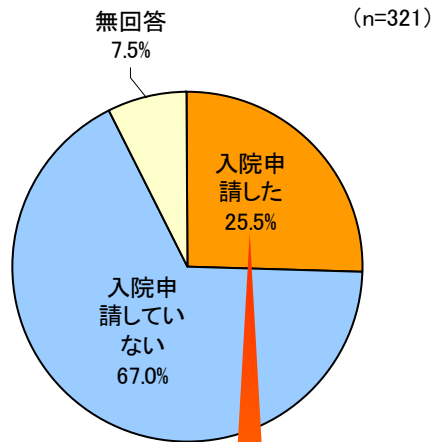
※ 療護センターを知っている者と回答した321名について集計

## (2) 療護センターへの申請、療護センターの増設についての考え

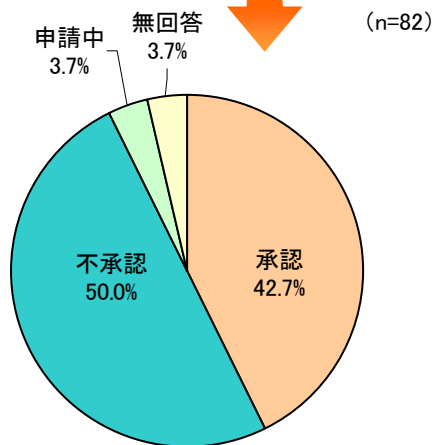


- 療護センターの存在を知っていて、「入院申請した」のは25.5%で、「入院申請していない」が多数を占めている。「入院申請した」回答者のうち、42.7%が承認されている。
- 「療護センターが増設されれば入院を希望する」と回答しているのは39.7%である。

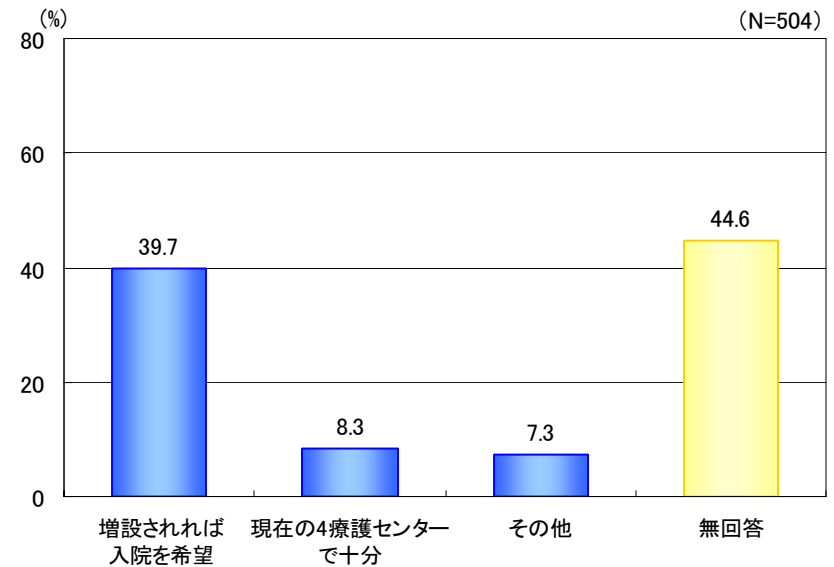
療護センターへの入院申請の有無



療護センターへの入院申請の結果



療護センターの増設についての考え



※ 「入院申請した」と回答した82名について集計